



取付・取扱説明書

<はじめに>

この度はドレンアップポンプ組込用除湿器をお買い上げ頂き、誠にありがとうございました。
本製品を安全にお使い頂く為には、定期的な保守点検作業が必要になりますので、この説明書をよくお読みください。

この説明書は保守の際に必要となりますので、必ず保存してください。

(目 次)

1.	安全上のご注意	2P
2.	製品の仕様	3P
3.	各部の名称	4P
4.	据付方法	6P
	4-1 据付場所の選定	
	4-2 接地	
	4-3 配管	
	4-4 配管カバーの設置(オプション品)	
	4-5 スライム抑制剤(オプション品)	
5.	試運転	12P
	5-1 除湿機	
	5-2 ドレンアップポンプ	
6.	電気配線	14P
7.	メンテナンス	15P
8.	異常が発生した場合の点検、対処方法	19P
9.	補修部品図、部品交換基準	23P
10.	保証期間	28P

1. 安全上のご注意

- <取付及び取扱>は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、警告、注意に区分していますが、誤った取付をした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に 警告 の欄にまとめて記載しています。しかし、注意 の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 取付工事完了後、試験運転を行い、異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
また、取付・取扱説明書は、お客様で保管頂くように依頼してください。

警 告

- 取付は、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼してください。ご自分で取付工事をされ不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
- 取付工事は、取付説明書に従って確実に行ってください。取付に不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 取付は、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合は、機器の落下により、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の取付工事を行ってください。取付工事に不備があると転倒などによる事故の原因になることがあります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び取付説明書に従って施行し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施行不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
- 配線は浮き上がらないように整形し、端子台へ確実に締込んで取付けてください。
端子台の締込みが不完全な場合は発熱、火災の原因になります。
- 改修は、絶対にしないでください。また、修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。修理に不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
- 水道法、消防法、高圧ガス取締法、毒物劇物取締法に規制される部材の取扱については専門業者に依頼してください。
- 説明書に記載のない設定項目の変更はしないでください。動作不良や安全装置の動作が正常に行われなくなる原因となります。

注 意

- アースを行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
- ドレン配管は、取付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
配管工事に不備があると水漏れし、家財を濡らす原因になることがあります。
- 長期使用で取付アンカーが傷んでないか注意してください。傷んだ状態で放置すると機器の落下、破損につながり、ケガ等の原因になることがあります。
- メンテナンスをする時は必ず運転を停止して、必ず電源を全て切ってください。電源を全て切らないでメンテナンスすると、ケガや感電の原因になることがあります。
又、運転直後はドレン水が出るので、充分時間を置いてからメンテナンスしてください。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 運転中及び運転後は、本体が熱くなることがありますので、お気をつけ下さい。

2. 製品の仕様

表2-1 ドレンアップポンプ組込用除湿機 仕様表

製品名	DH-P08RB-PA
除湿能力 (50/60Hz)	29/31 [L/d] (27°C, 60%RHの場合)
電源	単相100V 50/60 [Hz]
消費電力 (50/60Hz)	650/800 [W]
運転電流 (50/60Hz)	7.0/8.1 [A]
消費電力 (50/60Hz)	650/800 [W]
圧縮機出力	650 [W]
送風機出力	40 [W]
風量 (50/60Hz)	8.5/7 (標準) 12/12 (強) [m ³ /min]
騒音値 (標準/強)	47/49 [dB (A)] ※50/60Hz 共通
重量 (空/運転)	58/60 [kg]
使用温度範囲	1~45 [°C]
使用冷媒	HFC (R-407C)
冷媒封入量	575 [g]
GWP 値	1770
二酸化炭素換算値	1.018 [トン]
塗装色	マンセル 1Y8.5/0.5
安全装置	サーマルリレー 温度開閉器 圧力開閉器 (高圧) 電流ヒューズ 5A 30mm
付属品	ドレンアップポンプ組込用除湿機取説 : 1冊 (本紙) 除湿機本体取扱説明書 : 1冊 (別紙) ソフトナイロンチューブ φ6 : 50mm 1本 ソフトナイロンチューブ φ6 : 10m 1本 ボールバルブ φ6 : 1個 ワンタッチ継手 φ6×R1/4 : 1個 ブッシング Rc1/4×R1/2 : 1個 ヒューズ 5A 30mm : 1個 (ドレンアップポンプ組込部)

表2-2 ドレンアップポンプ (オプション品) 仕様表

最大揚程	5.0 [m]
排水流量 (最大揚程時)	0.25 [L/min] ※1
電源	単相100-200V 50/60 [Hz]
消費電力 (50/60Hz)	35 [W]
使用温度範囲	5~40 [°C]
騒音値 (50/60Hz)	45 [dB (A)]
重量 (空/運転)	2.3/3.3 kg
安全装置	高水位感知用近接スイッチ 高水位感知用サブフロートスイッチ

※1 揚程5.0m, ソフトナイロンチューブ (φ6) 10mの設置条件

3. 各部の名称

<製品外観>

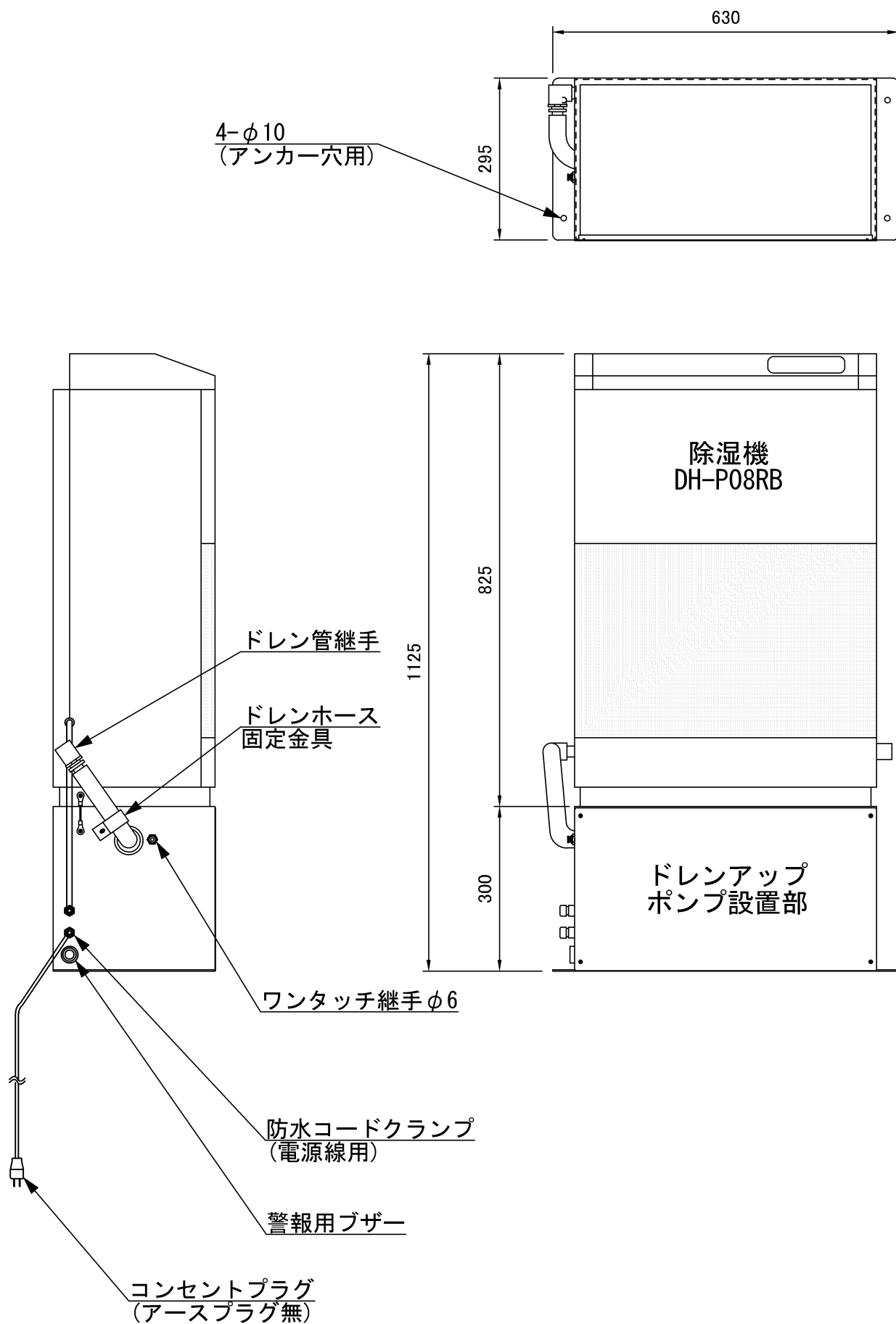


図3-1 製品外観

<ドレンアップポンプ設置部>
・ 前面カバー板を外した状態

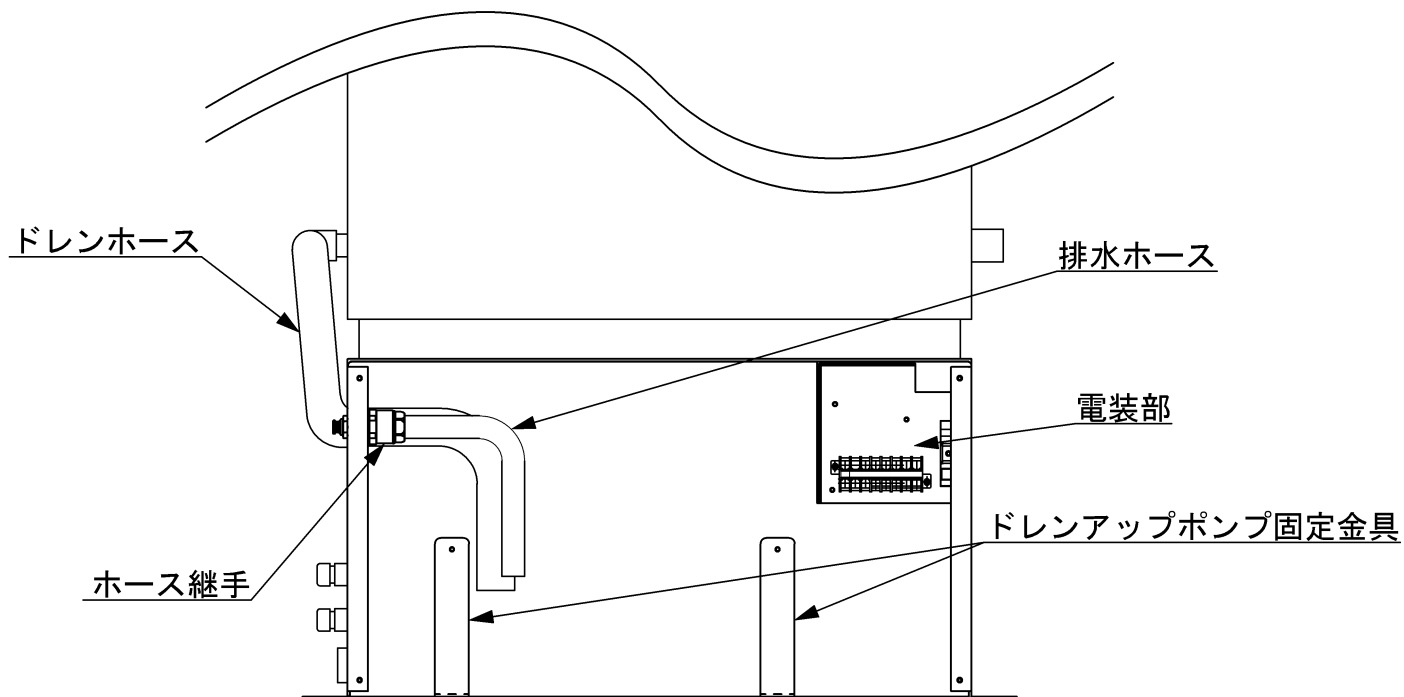


図3-2 ドレンアップポンプ設置部外観

<ドレンアップポンプ設置部>
ドレンアップポンプを設置した状態

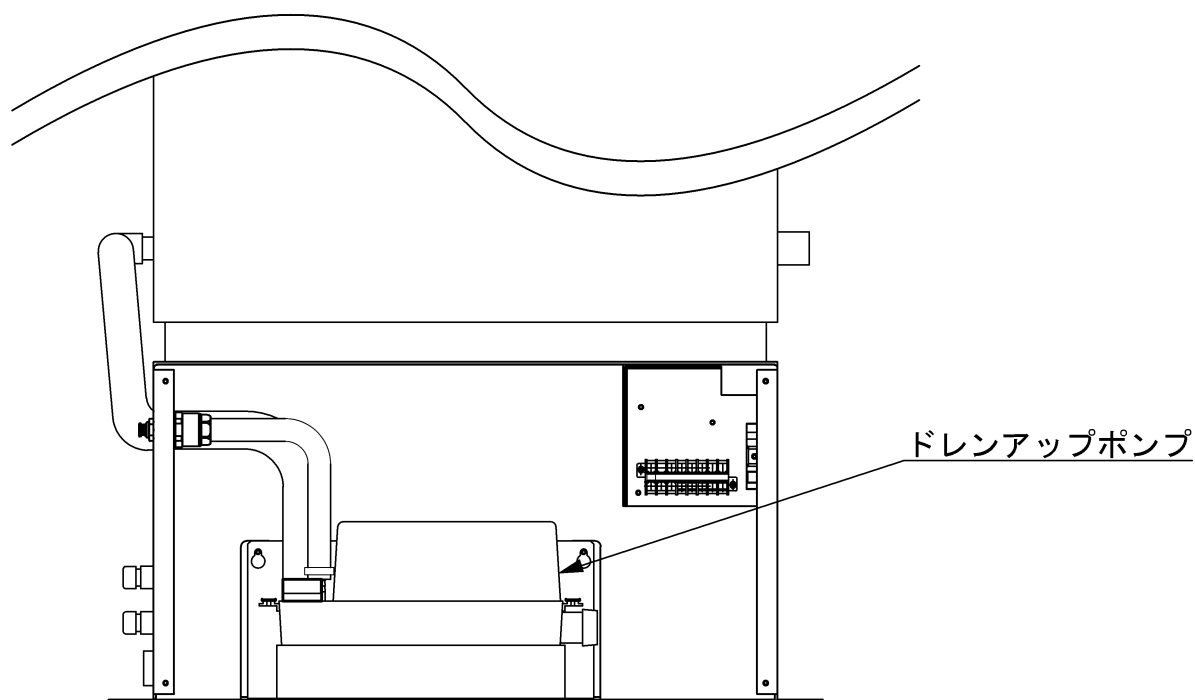


図3-3 ドレンアップポンプ設置部(ドレンアップポンプ設置時)外観

4. 据付方法

4-1. 据付場所の選定

水平な面に据付を実施してください。据付位置が水平でない場合、正常な動作を行わなくなる場合があります。

アンカー穴 $\phi 10$ が4箇所(下図参照)ありますので、M8アンカーボルト(現地手配)にて製品を固定してください。

上方については、通風スペースとして1000mm以上確保してください。

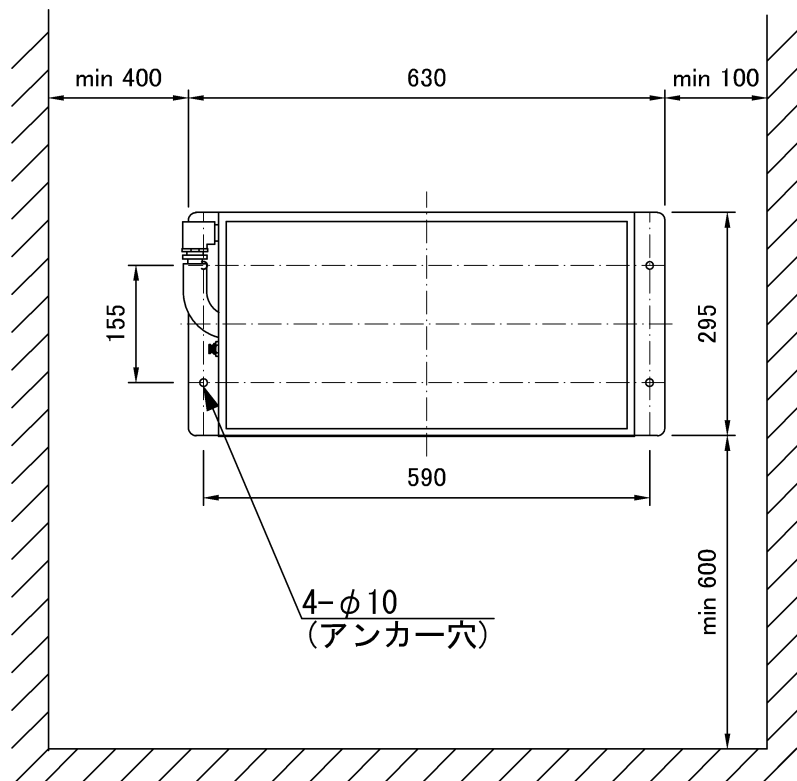


図4-1 据付周辺スペース

4-2. 接地

感電防止のため、アースは必ず施工してください。

アース端子は除湿機の左側面下部に設けております。

アース線の太さは、1.6mm以上とし接地抵抗値100 Ω 以下とってください。

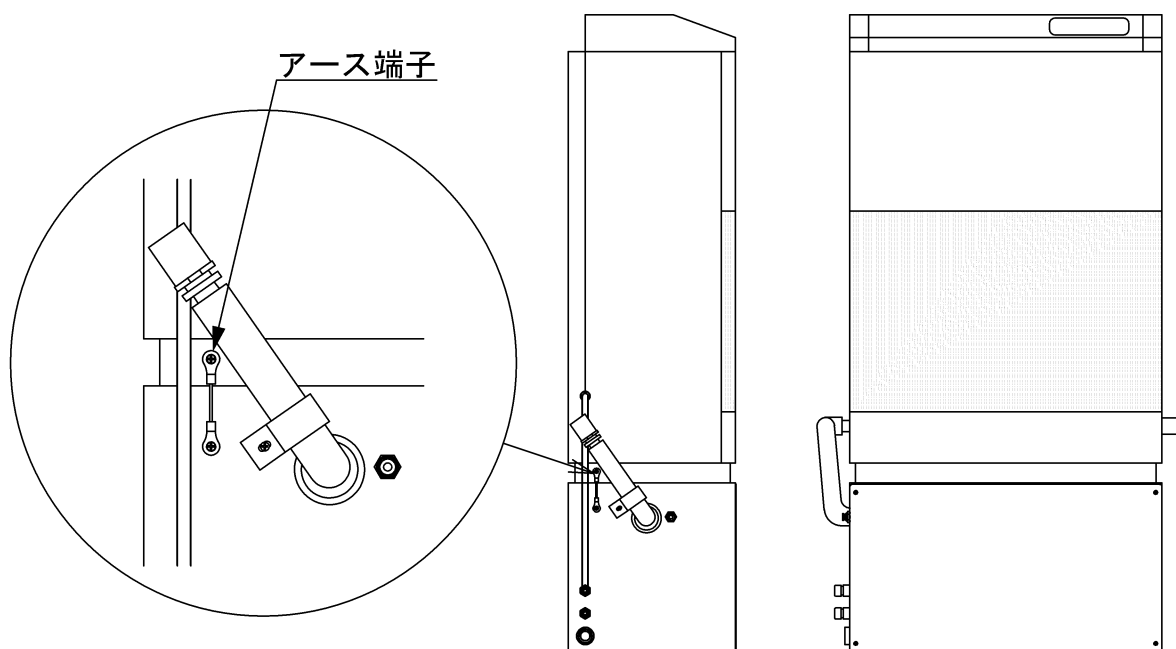


図4-2 アース施工図

4-3. 配管(標準仕様)

ワンタッチ継手に付属品のソフトナイロンチューブφ6(50mm)、ボールバルブ、ソフトナイロンチューブφ6(10m)を差込み、ドレン排出先までチューブを伸ばします。ソフトナイロンチューブφ6(10m)は、必要な長さに現地でカットしてご使用ください。また、ブッシング(R1/2側使用可能)を付属しているため、ドレン排出先にてソケット等(現地手配)に接続が可能となります。
(シールテープを巻いて接続)

※ドレンアップポンプの最大揚程は5mのため、ワンタッチ継手を始点として、揚程5m以内に施工してください。

※ソフトナイロンチューブ配管(φ6)は、折れないように施工してください。

※配管カバー設置時は、配管施工方法が異なるので、「4-4. 配管カバーの設置」に記載している配管を実施してください。

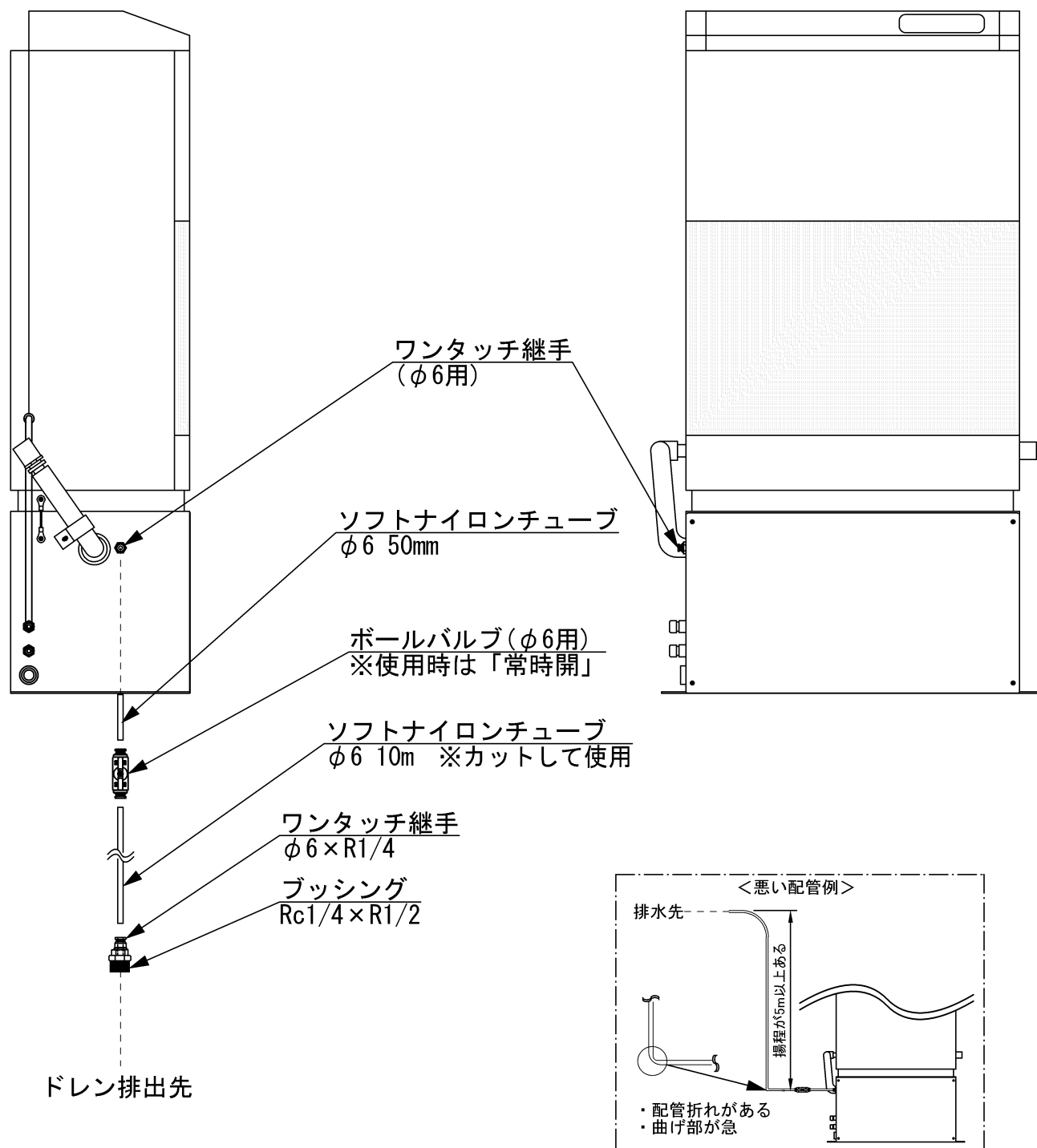


図4-3 配管施工図

4-4. 配管 (オプション品の配管カバー取付時)

下記手順にて施工してください。

手順①配管カバー部品 (カバー、取付金具1、取付金具2、付属ビス、エルボ継手) を準備する

手順②取付金具1、取付金具2を図4-4の通りにビス (M4) 留めする

手順③配管および電線を図4-5の通り取付金具2の角穴を通して施工する

手順④カバーを取付金具1と取付金具2にビス (M4) 留めする

<手順①>部品準備

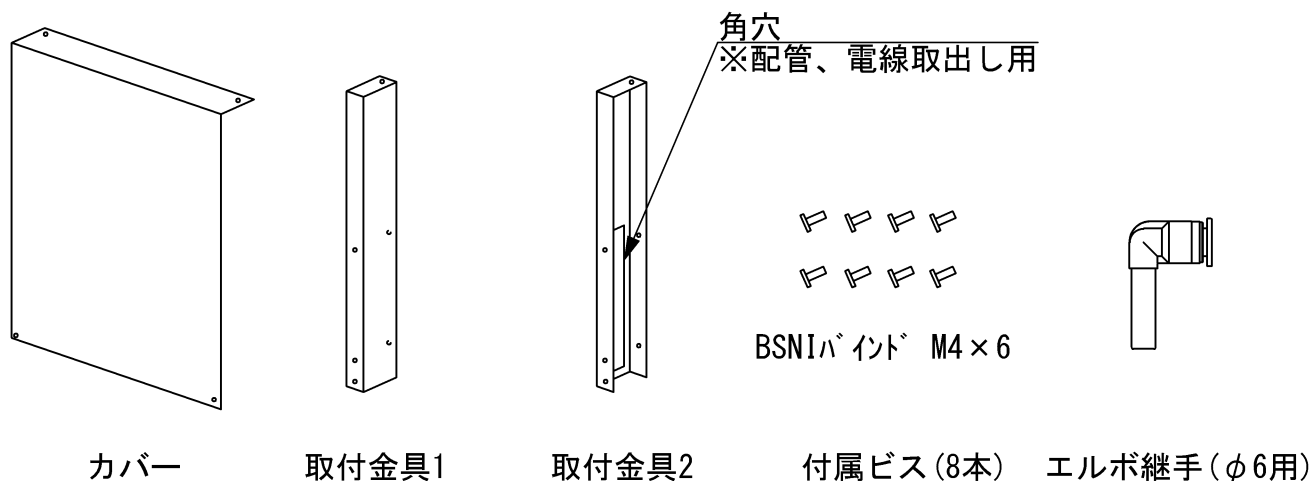


図4-3 配管カバーセット部品

<手順②>取付金具の施工

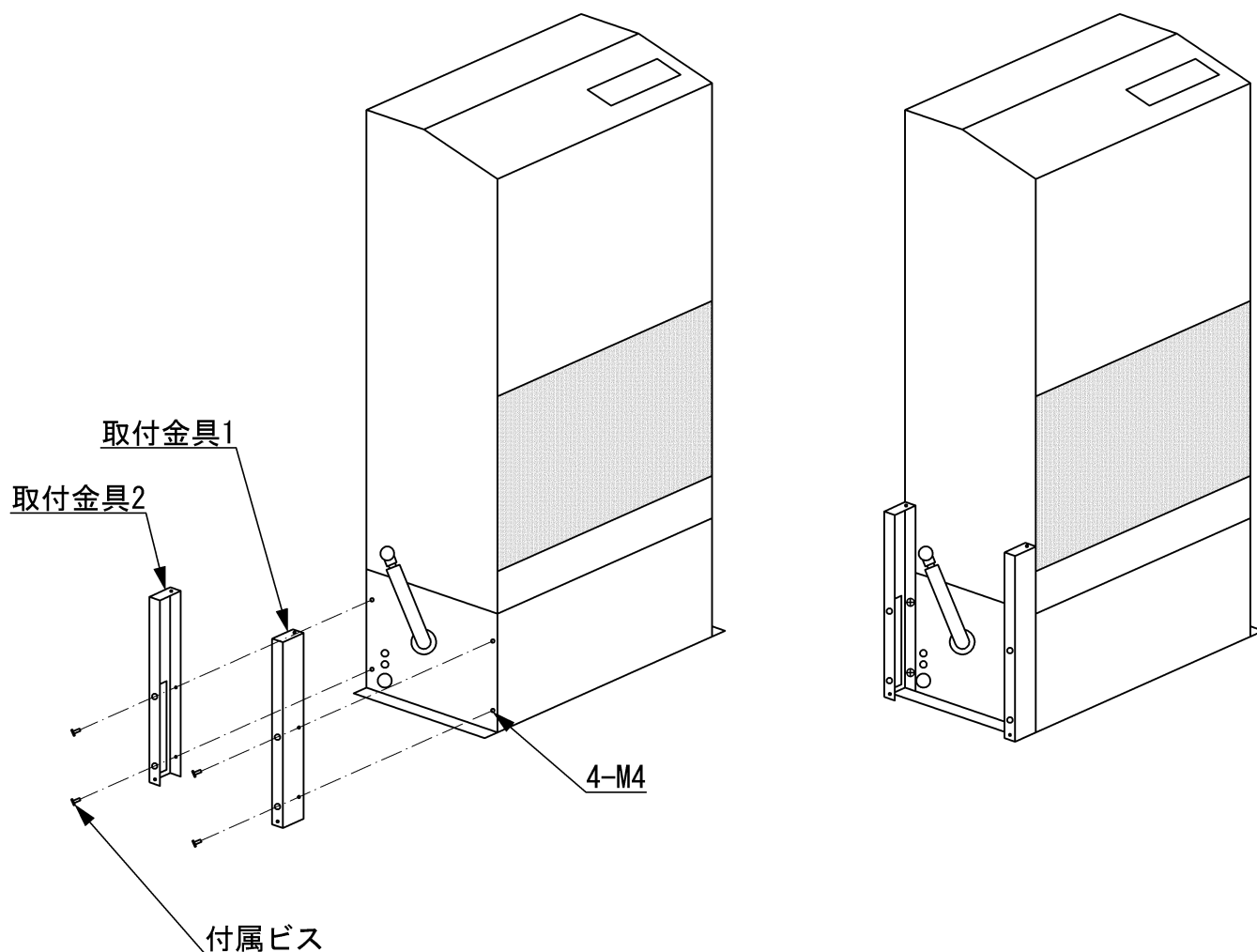


図4-4 取付金具の施工図

<手順③>配管

※「4-3. 配管」の注意事項を確認して配管してください。

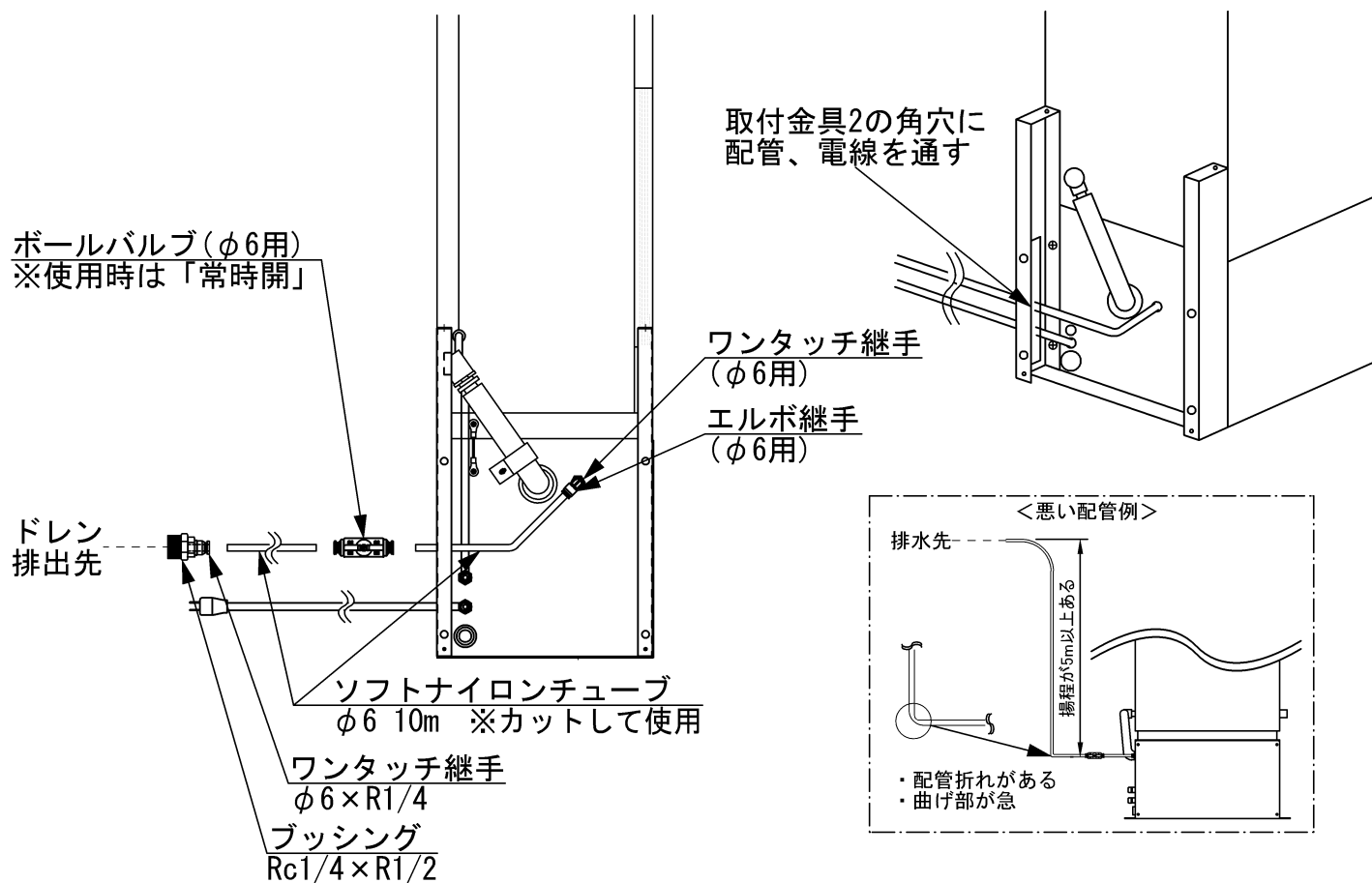


図4-5 配管施工図 (配管カバー設置時)

<手順④>配管カバー取付

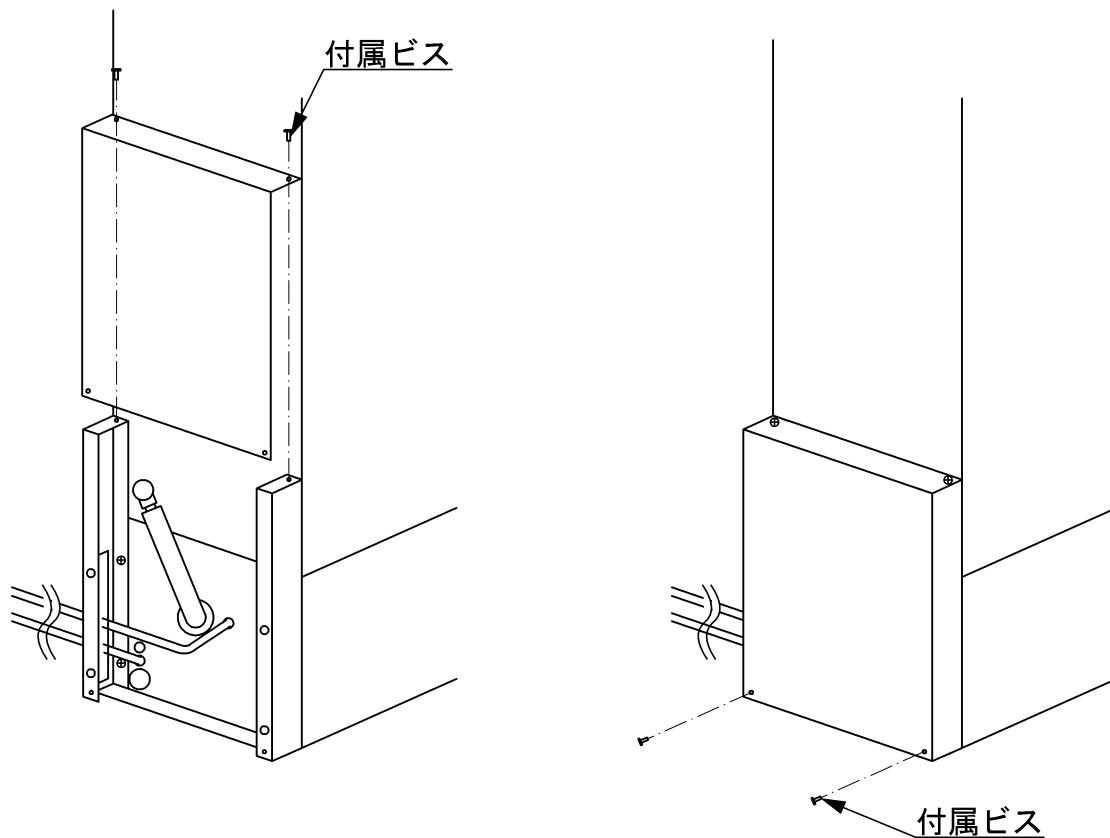


図4-6 配管カバー施工

4-5. スライム抑制剤 (オプション品)

ドレンアップポンプのタンク内に設置することで、
逆止弁やホースの詰まりの原因となるスライムの発生を抑制できます。

表4-1 スライム抑制剤 仕様表

製品名	スライム抑制剤
寸法	75×60×10 [mm]
重量	20g

※交換目安は約1年
(スライム抑制剤の粒が無くなっても交換)

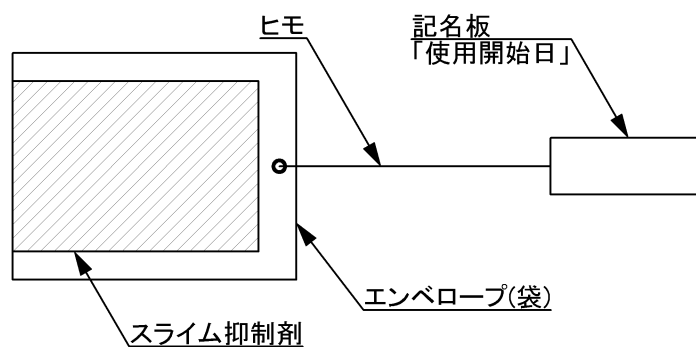
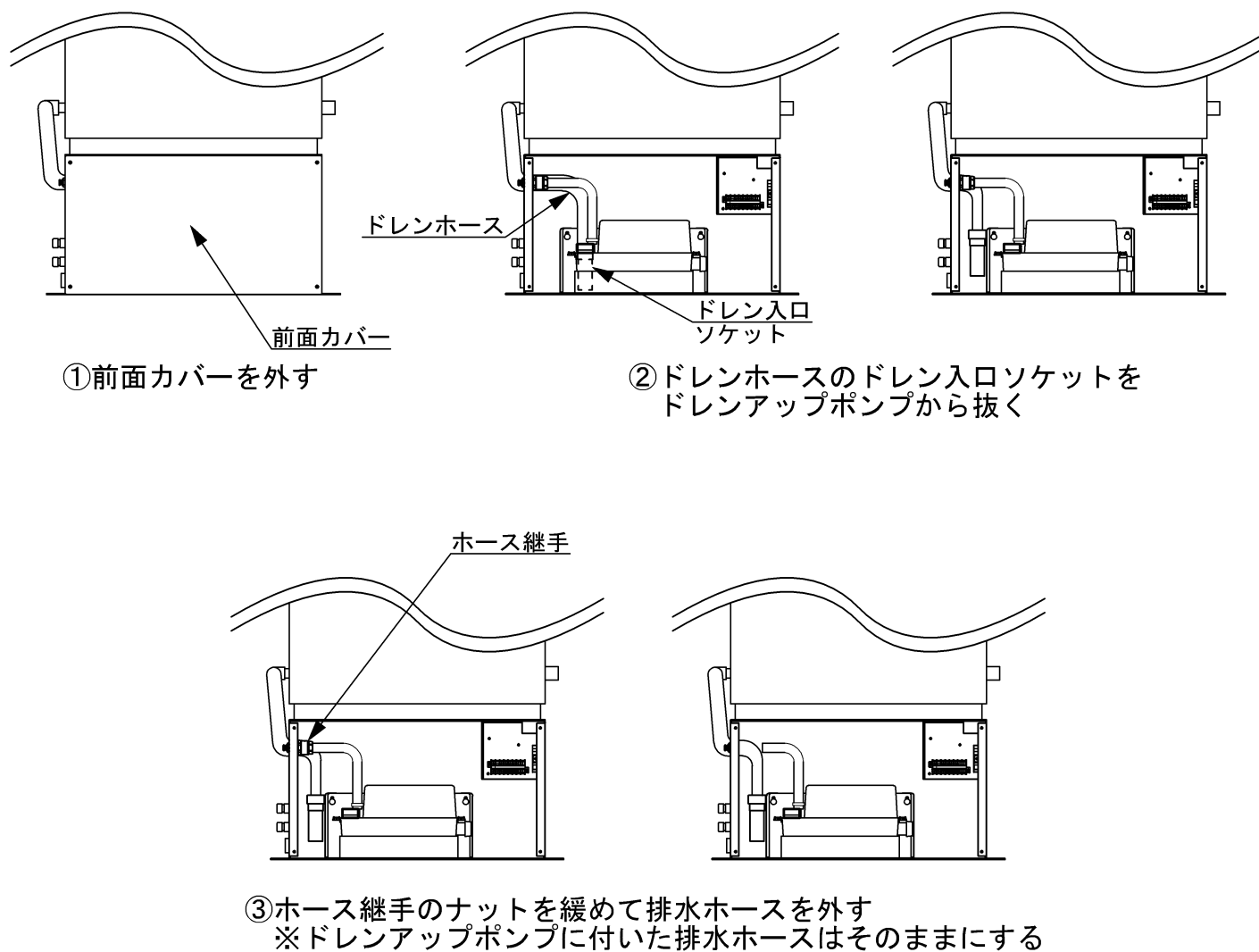
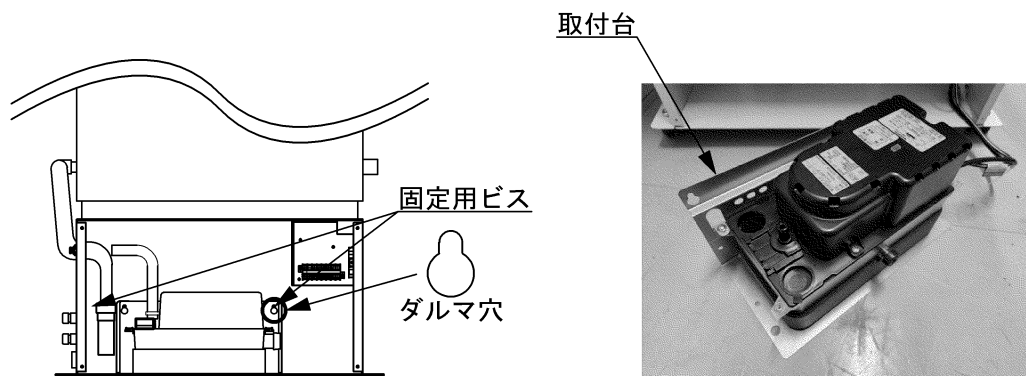


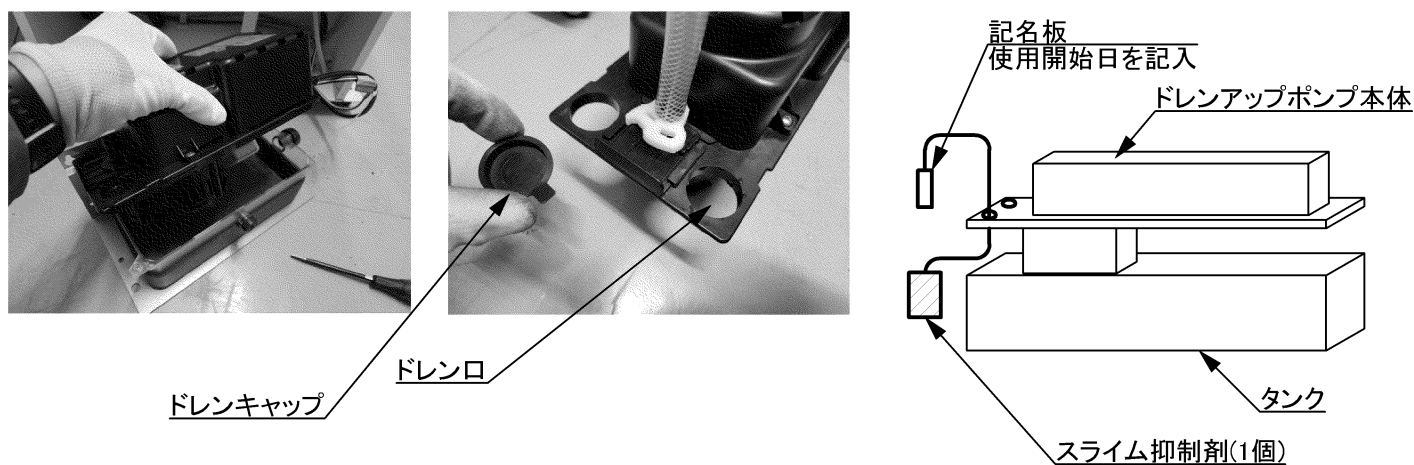
図4-7 スライム抑制剤 外観

〈スライム抑制剤の取付け方法〉

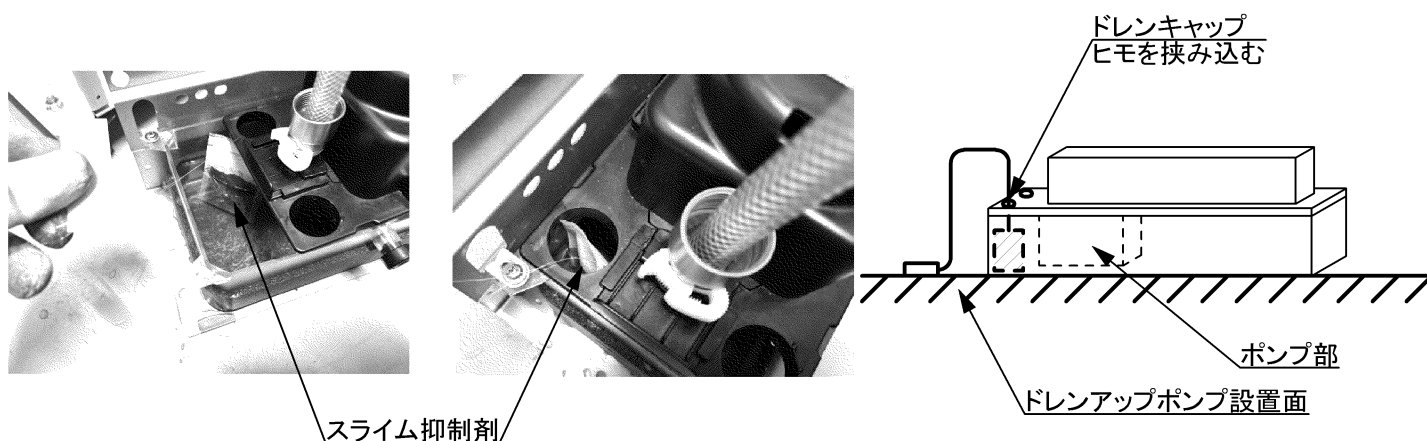




- ④固定用ビス2本を緩めてドレンアップポンプを取付台ごと外す
※ダルマ穴のため、ビスは緩めるだけにする



- ⑤ドレンアップポンプ本体とタンクに分離し、ドレンキャップを取り外して
スライム抑制剤に付属している記名板をドレン口下側から通す



- ⑥スライム抑制剤をタンク内に設置し、ポンプ部の下敷きにならないように注意しながら、
ドレンアップポンプ本体とタンクを組み立て、スライム抑制剤が横にならないように調整して
ドレンキャップでヒモを挟み込み、記名板に使用開始日を記入して取付完了

- ⑦①～④の各項について、逆の手順で復旧してください。

5. 試運転

5-1. 除湿機

- ・コンセントプラグをコンセントに差し込んでください。
 - ・運転スイッチを「入」にし、運転表示灯(緑)が点灯すること、ファンが運転開始することを確認してください。
※吸込空気温度が35℃以上で常時使用する場合は、風量切替スイッチを「強風」にしてください。
 - ・湿度調節スイッチを回して「ON」に合わせてください。
 - ・コンプレッサーが動作開始することを確認(動作音)し、熱交換器(エアークリフィルタ裏部)が冷えていることを確認してください。
- 手順①エアークリフィルタの両端をつかんで、手前に引いて外す
※エアークリフィルタは磁石で取り付いています
- 手順②熱交換器が冷えていることを確認

<注意>

- ・除湿運転停止後に再運転するときは、約3分経過してから再運転してください。停止後すぐに再運転すると、圧縮機が運転せずに点検表示灯が点灯します。
- ・運転スイッチを「入」にして数秒で「切」にする操作をしないでください。スイッチや圧縮機が損傷する恐れがあります。

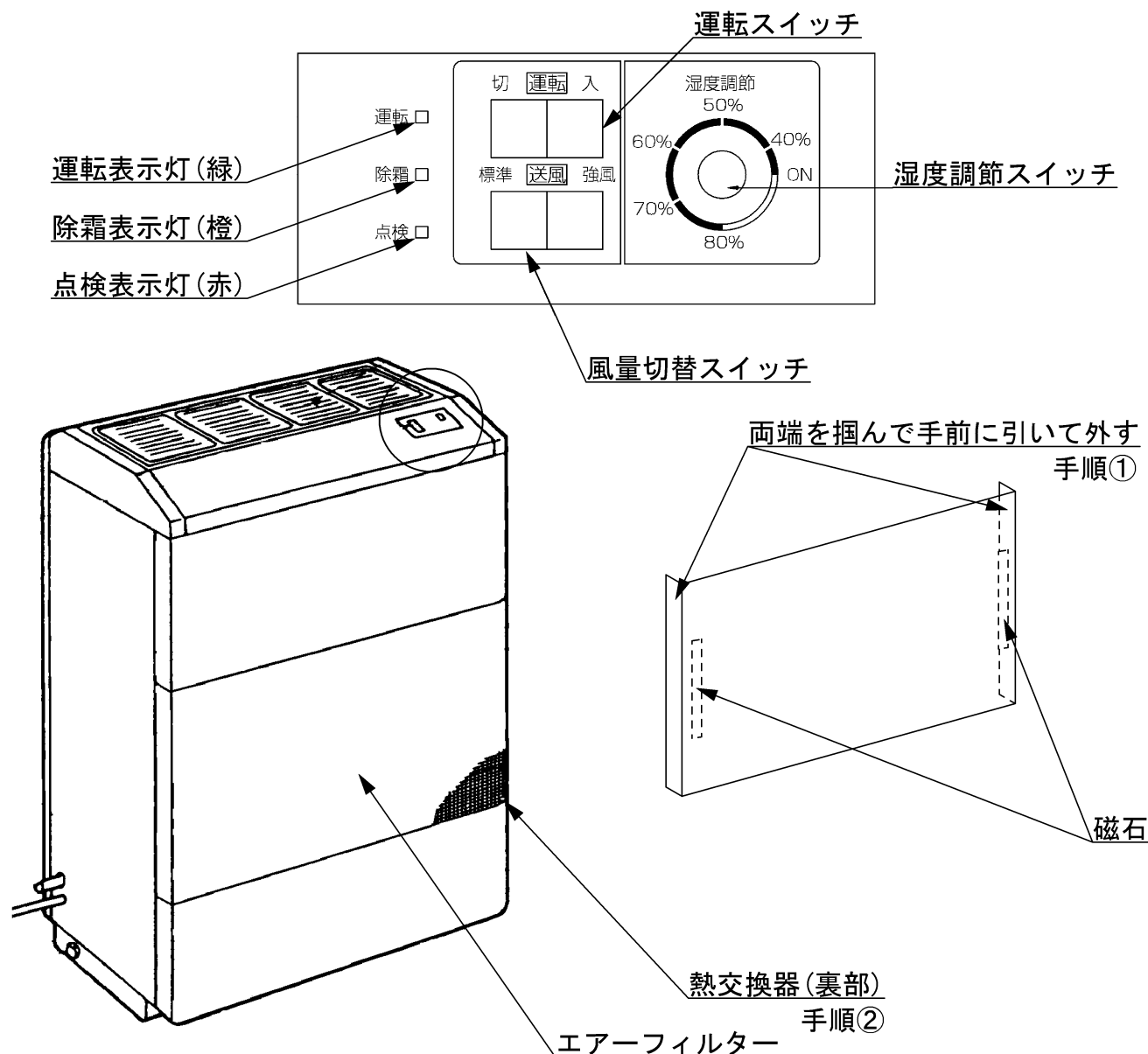


図5-1 除湿機試運転要領

5-2. ドレンアップポンプ

- ・コンセントプラグをコンセントに差し込んでください。
- ・除湿機DH-P08RBの背面パネルを取り外してドレンパンに水を少しずつ(約1.6L)入れてポンプが運転開始し、排水後に停止するのをご確認ください。また、排水先で排水が確実に行われていること、接続部から水漏れが無いか確認してください。

手順①背面パネルを留めているビス4箇所を外し(○部)背面パネルを外す
手順②ドレンパンに水を少しずつ(約1.6L)入れてポンプの運転、停止を確認
手順③背面パネルを取付けて復旧
※背面パネルの下側に引っ掛ける用のツバがあるため、注意

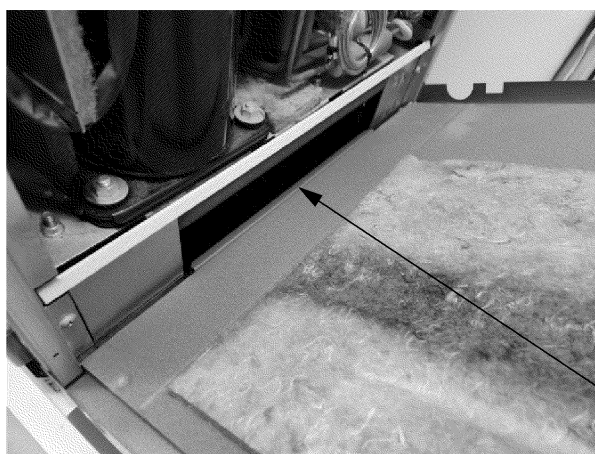
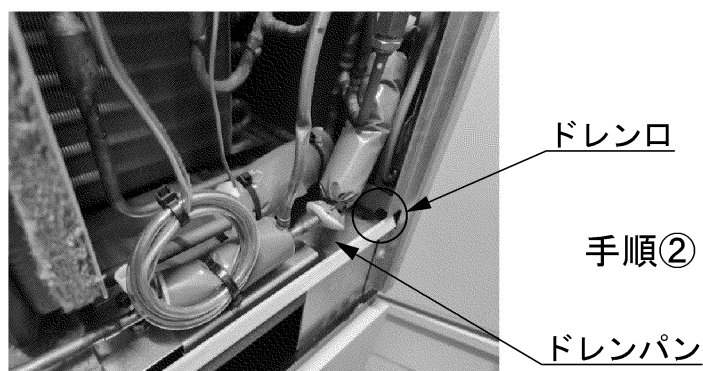
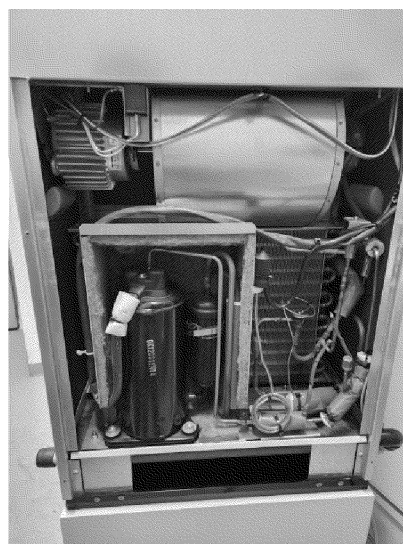
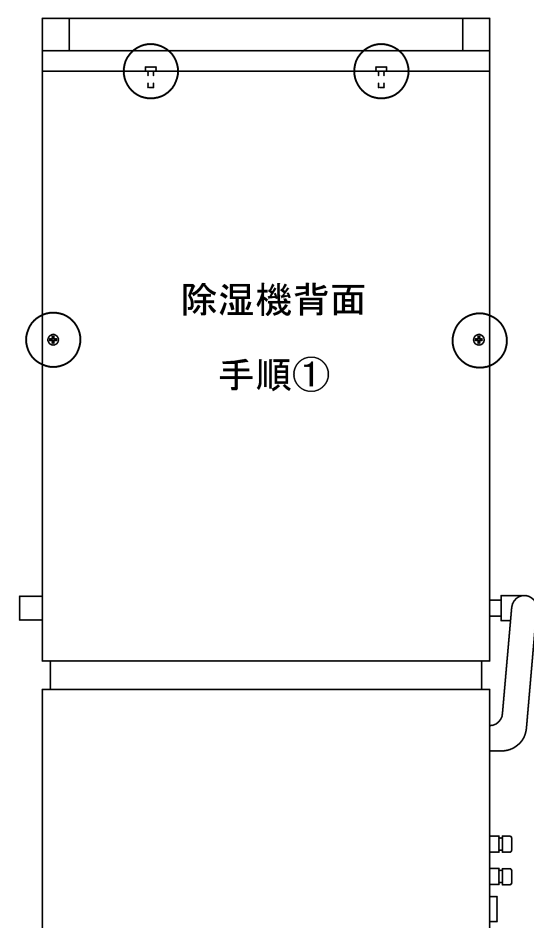


図5-2 ドレンアップポンプ試運転要領

6. 電気配線

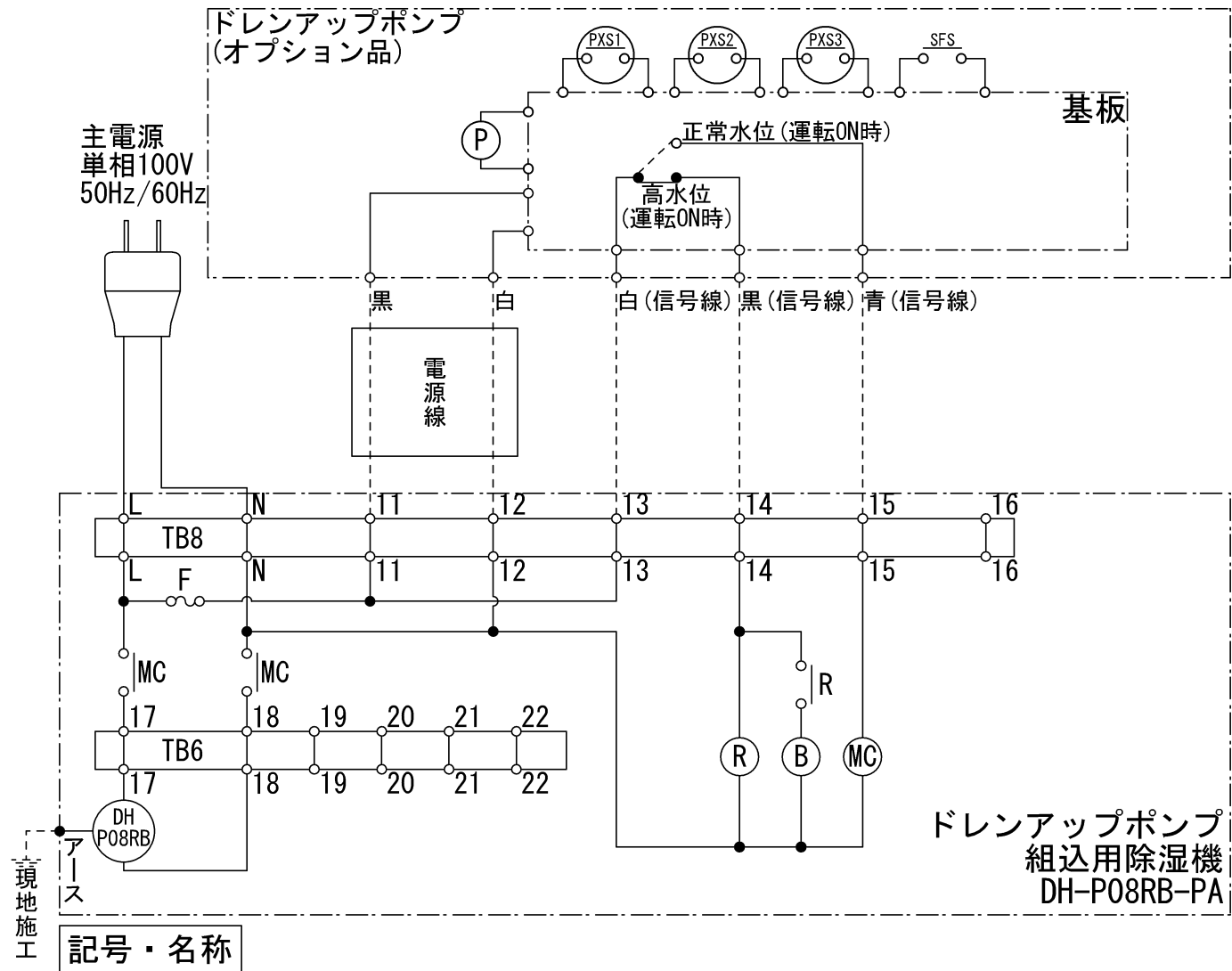


図6-1 電気回路図

＜注意＞

本製品は、主電源コンセントの抜き差し、または外部スイッチ等を介した主電源入/切による運転停止を行わないでください。除湿機は、運転停止後も約2時間ほど残留ドレン水が流れるため、主電源を切ってしまうと、ドレンアップポンプの運転が停止してしまい、水漏れが起こる恐れがあります。除湿機の運転を停止する際は、必ず除湿機本体の運転スイッチで運転/停止を行い、コンセントプラグを抜く場合は、除湿機運転停止後、約2時間経過してから抜いてください。

7. メンテナンス

メンテナンス時は、必ずコンセントプラグを抜いた状態で作業してください。

<除湿機エアフィルター清掃、交換>

エアフィルターにホコリが詰まると、除湿能力低下の原因となります。
定期的に(2週間ごと推奨)清掃してください。(交換目安：1年に1回)

手順①エアフィルターの両端をつかんで、手前に引いて外す

※エアフィルターは磁石で取り付いています

手順②フィルターの埃は軽くたたいたり、掃除機等で落としてください。
汚れに関しては、40℃以下のぬるま湯、または水に浸けて洗ってください。

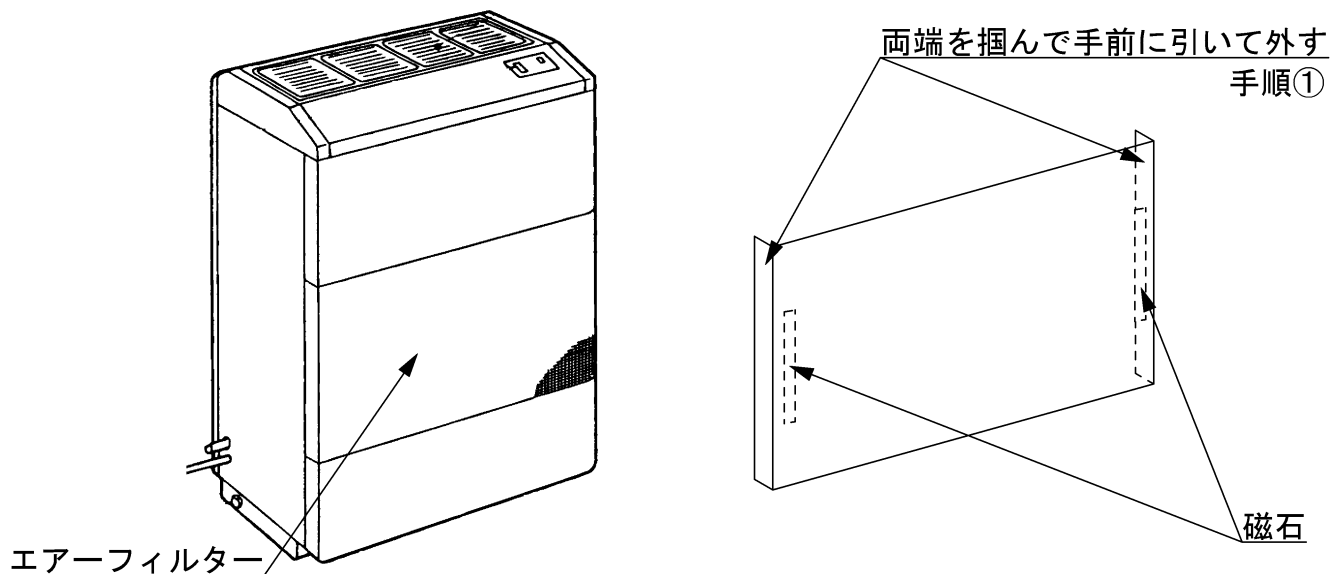


図7-1 除湿機エアフィルターのメンテナンス

<ドレンアップポンプ組込部、ドレンアップポンプ本体のメンテナンス>

(1) ドレンホースの清掃、確認 (交換目安：2年に1回)

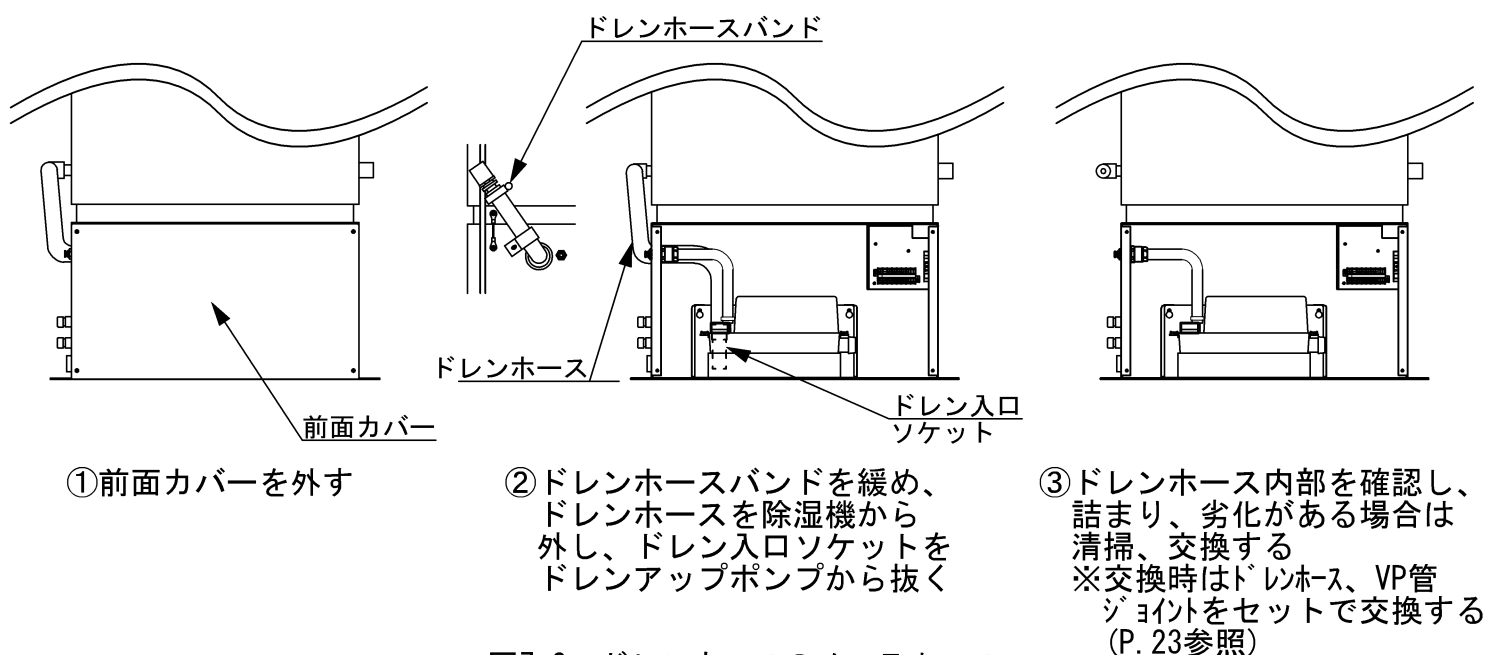
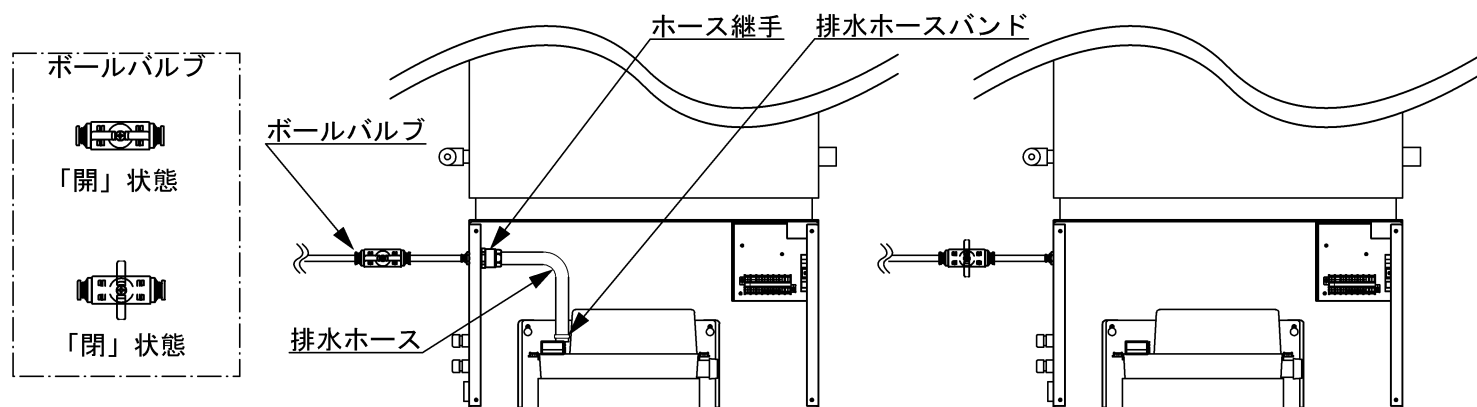


図7-2 ドレンホースのメンテナンス

(2) 排水ホースの清掃、確認（交換目安：2年に1回）



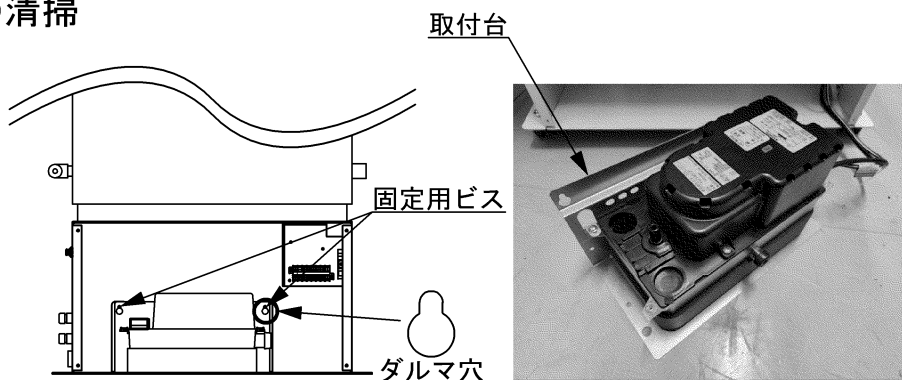
- ① ボールバルブを閉め、ホース継手のナットを緩めて排水ホースを外す
排水ホースバンドを外して、排水ホースをドレンアップポンプから抜く
※ボールバルブが開いていると戻り水が逆流します

- ② 排水ホース内部を確認し、詰まり、劣化がある場合は清掃、交換する

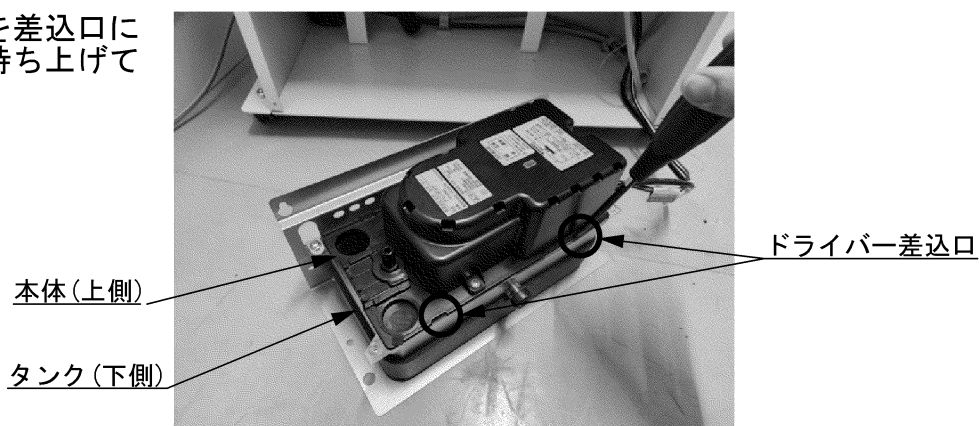
図7-3 排水ホースのメンテナンス

(3) ドレンアップポンプの清掃

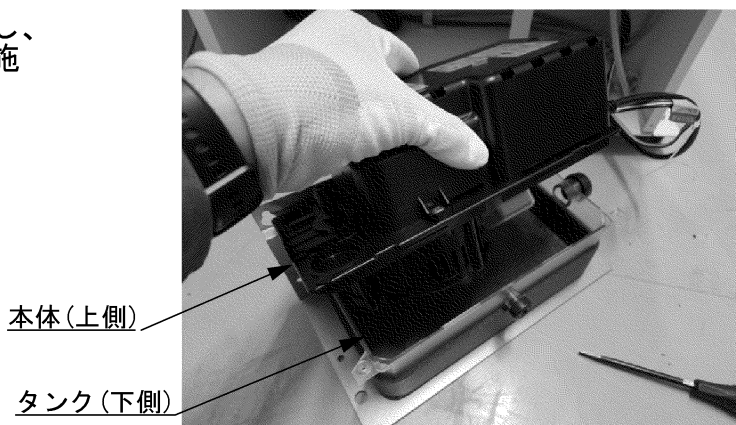
- ① 固定用ビス2本を緩めてドレンアップポンプを取付台ごと外す
※ダルマ穴のため、ビスは緩めるだけ



- ② マイナスドライバーを差込口に差し込み、上方向に持ち上げて本体とタンクを外す



- ③ 本体とタンクを分離し、タンク内の清掃を実施



④メインフロートが上下にスムーズに動作することを確認

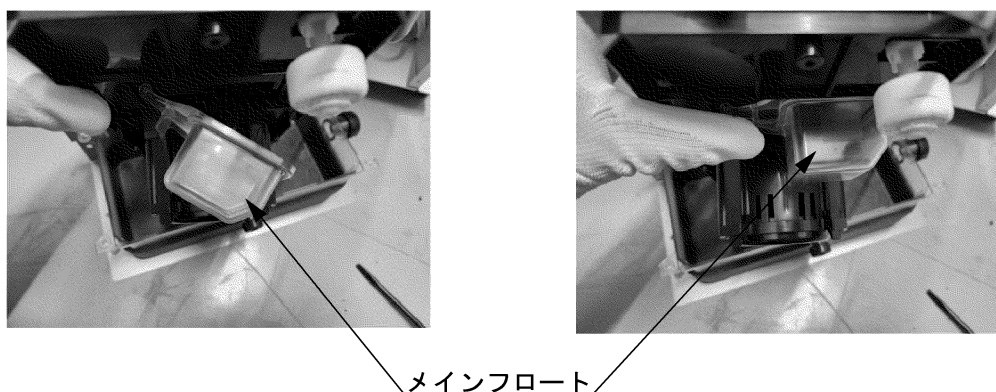


図7-4 ドレンアップポンプのメンテナンス

<逆止弁の清掃、交換>

逆止弁のごみ噛みによる逆流、固着による詰まりにより、ドレン排出ができなくなる場合があります。ドレン排出ができなくなった時、または定期的に（半年に1回）清掃してください。（交換目安：3年に1回）

- ①ドレン出口管固定具を矢印方向に引き、ドレン出口管を引き上げて取り外してください。
- ②逆止弁と樹脂ワッシャーを出口管から取り外してください。内部に異物がないかを確認してください。
- ③ドレン出口管内部、または逆止弁内部の異物を取り除き、逆止弁にキズがないかをご確認ください。必要な場合は新しい物と交換してください。
- ④逆止弁をドレン出口管にセットして落ちないかをご確認ください。
- ⑤ドレン出口管をまっすぐドレンポンプの奥まで差し込みます。
※斜めに差し込むとOリングが機能せず水漏れの原因となります
- ⑥ドレン出口管固定具を押してカチッと音がする位置まで差し込み、タンク側面とドレン出口管固定具の側面位置が合うようにしてください。

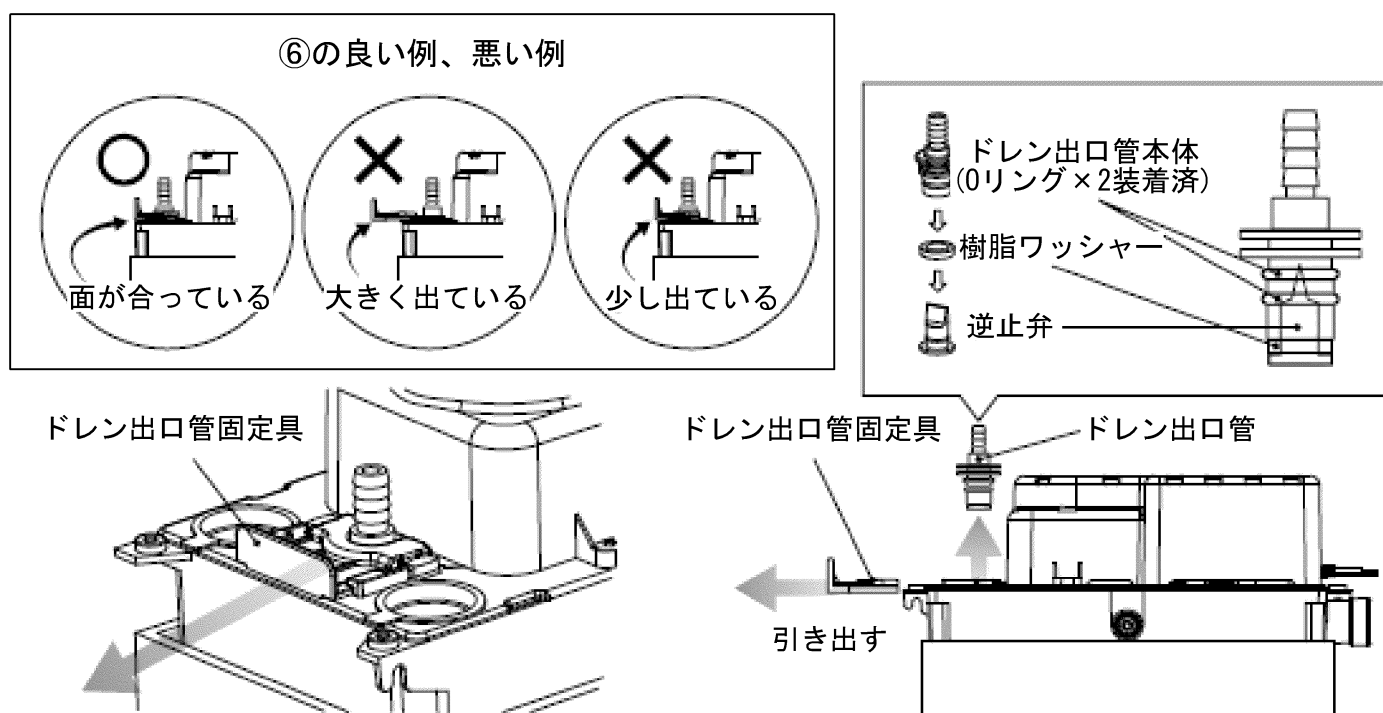
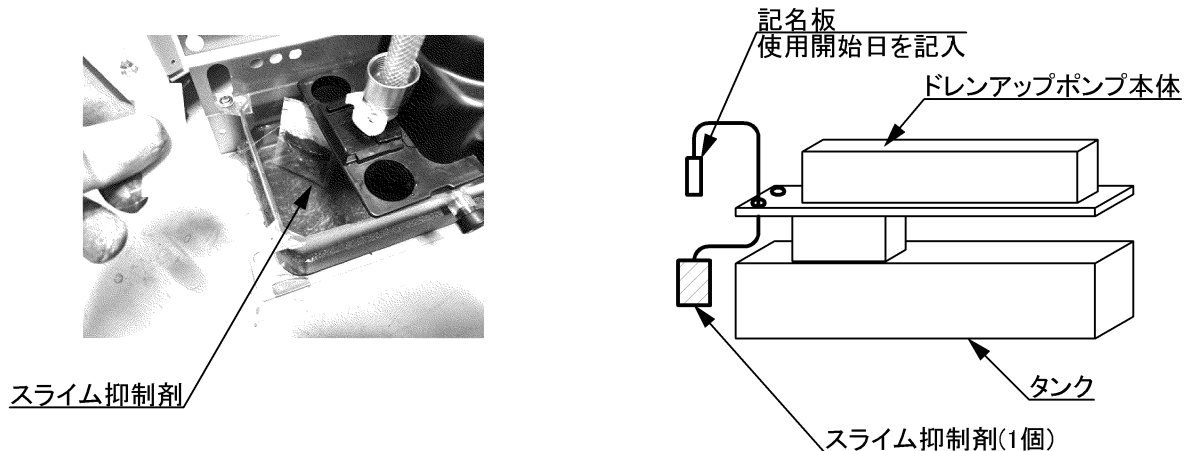


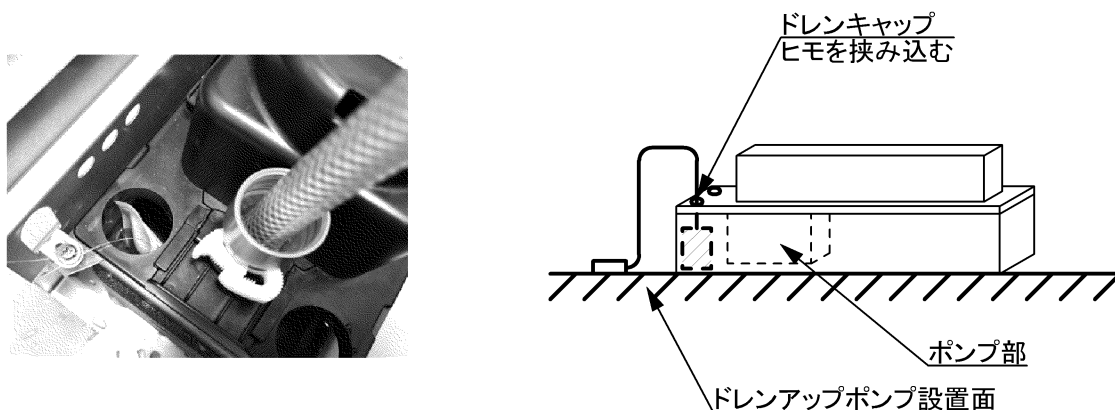
図7-5 逆止弁の清掃、交換

- (4) スライム抑制剤(オプション品)の交換 (交換目安: 1年に1回)
 ※スライム抑制剤の粒が無くなった時点でも交換

交換作業は、前項の「(3) ドレンアップポンプの清掃」を実施後に下記作業にて行ってください。



- ① ドレンアップポンプ本体とタンクに分離し、タンク内に設置してある古いスライム抑制剤を取り出し、新しいスライム抑制剤に付属している記名板をドレン口下側から通す



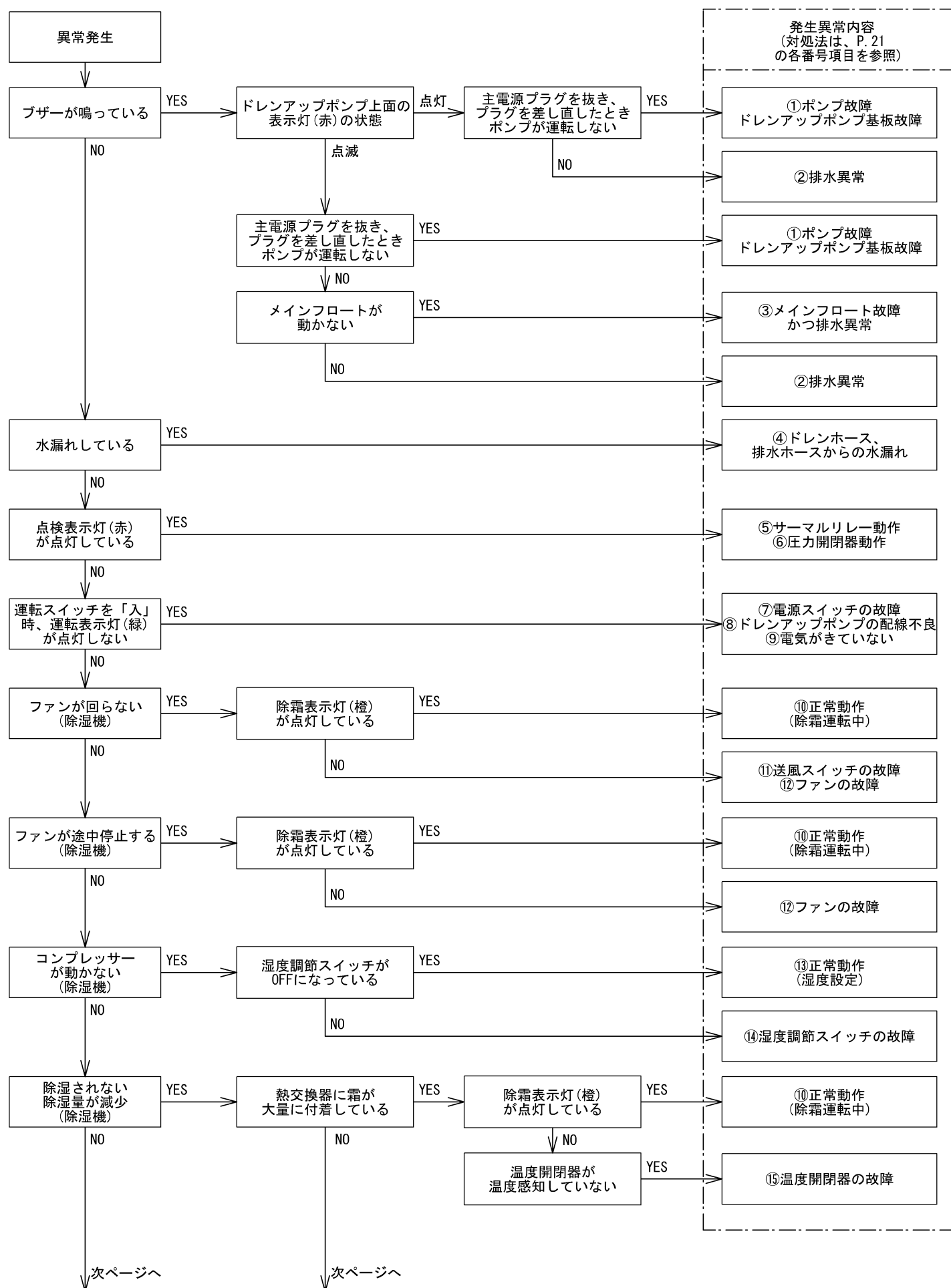
- ② 新しいスライム抑制剤をタンク内に設置し、ポンプ部の下敷きにならないように注意しながら、ドレンアップポンプ本体とタンクを組み立て、スライム抑制剤が横にならないように調整してドレンキャップでヒモを挟み込み、記名板に使用開始日を記入して取付完了

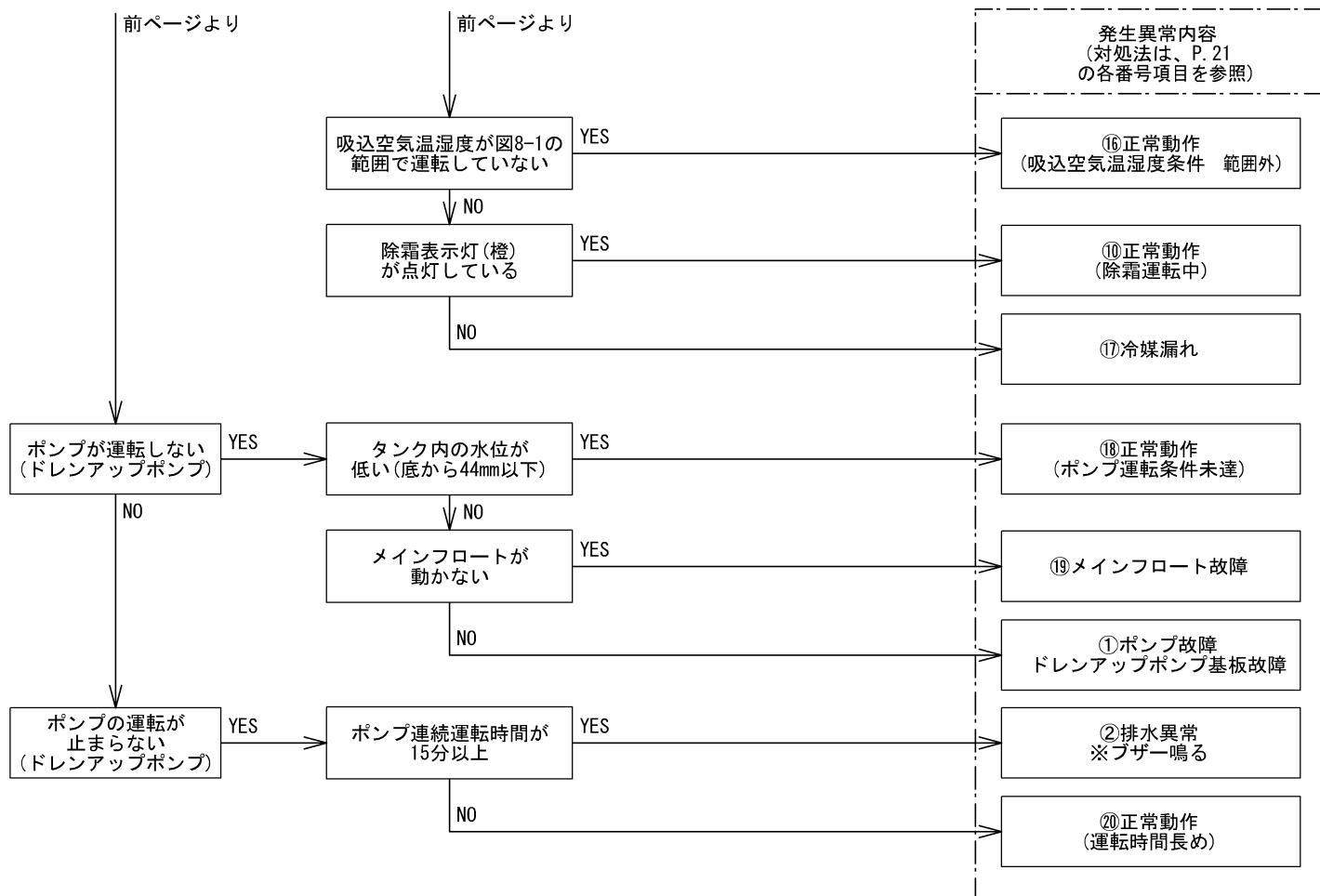
図7-6 スライム抑制剤の交換方法

- (5) 復旧
 各項について、逆の手順で復旧してください。
 ※ボールバルブを「開」にするのを忘れないようご注意ください。

8. 異常が発生した場合の点検、対処方法

サービスをお申し付けの前に、次の点をお調べください。





<異常の場合の原因詳細>

	異常内容	原因	対処方法
①	ポンプ故障 ドレンアップポンプ 基板故障	・ポンプ故障による運転不可 ・ドレンポンプ内基板の故障	・ドレンアップポンプ本体の交換
②	排水異常	・タンク内が高水位状態となっている ・排水ホースの折れ、詰まり ・ボールバルブが閉まっている ・揚程5m以上の施工 ・ホース長が10m以上の施工 ・逆止弁のごみ噛み、固着	・排水配管を修正 (P. 7参照) ・ボールバルブを開く ・逆止弁の清掃、交換 (P. 17参照)
③	メインフロート故障 かつ排水異常	・メインフロートが動かなくなっている ・タンク内が高水位状態となっている ※②排水異常を参照	・メインフロート洗浄、交換 ・排水配管を修正 (P. 7参照)
④	ドレンホース、 排水ホースからの水漏れ	・ドレンホースの施工不良、外れ ・排水ホースの施工不良、外れ	・ドレンホースの確認 (P. 15参照) ・排水ホースの確認 (P. 16参照)
⑤	サーマルリレー動作	・吸込空気温湿度が範囲外で使用している ・熱交換器の汚れ ・エアーフィルターの詰まり	・吸込空気温湿度範囲内 (図8-1) で運転 ・熱交換器の清掃 ・エアーフィルターの清掃、交換 (P. 15参照)
⑥	圧力開閉器動作	・吸込空気温湿度が範囲外で使用している ・送風機の風量不足	・吸込空気温湿度範囲内 (図8-1) で運転 ・風量を「強風」に切替 (P. 12参照)
⑦	電源スイッチの故障	・元電源の配電盤でブレーカが動作している ・ブレーカが上がっていない ・停電中 ・コンセントにプラグを差していない	・ブレーカが動作している場合は、動作原因を取り除きブレーカを入れる ・停電の回復 ・プラグを差し込む
⑧	ドレンアップポンプ の配線不良	・ドレンアップポンプの電線が正しく配線されていない	・回路図通りに配線する
⑨	電気がきていない	・元電源の配電盤でブレーカが動作している ・ブレーカが上がっていない ・停電中 ・コンセントにプラグを差していない	・ブレーカが動作している場合は、動作原因を取り除きブレーカを入れる ・停電の回復 ・プラグを差し込む
⑩	正常動作 (除霜運転)	・除霜運転中はファン停止し、熱交換器が温まっており、除湿運転停止状態	・除霜運転停止まで待機する
⑪	送風スイッチの故障	・経年劣化による故障	・送風スイッチの交換 (修理依頼)
⑫	ファンの故障	・経年劣化による故障	・ファンの交換 (修理依頼)
⑬	正常動作 (湿度設定)	・湿度調節器の設定が高湿度側に設定されており、運転条件がONになっていないため	・運転条件がONになると、運転開始
⑭	湿度調節スイッチの故障	・経年劣化による故障	・湿度調節スイッチの交換 (修理依頼)
⑮	温度開閉器の故障	・経年劣化による故障	・温度開閉器の交換 (修理依頼)
⑯	正常動作 (吸込空気 温湿度条件範囲外)	・吸込空気温湿度が範囲外で使用している	・吸込空気温湿度範囲内 (図8-1) で運転
⑰	冷媒漏れ	・銅管部の腐食、経年劣化による冷媒漏れ	・運転環境 (腐食成分等) の確認 ・漏れ部の補修・交換し、冷媒再封入 (修理依頼)
⑱	正常運転 (運転条件未達)	・タンク内の水位が底から45mm以上になると、ポンプ運転が開始する	・水位が45mm以上になると、ポンプ運転が開始
⑲	メインフロート故障	・メインフロート故障によるポンプ運転不可	・メインフロート洗浄、交換
⑳	正常動作 (運転時間長め)	・排水配管の施工状況 (揚程、ホース長等) により、運転時間に多少の差あり	・気になる場合は、排水配管を修正 (P. 7参照)

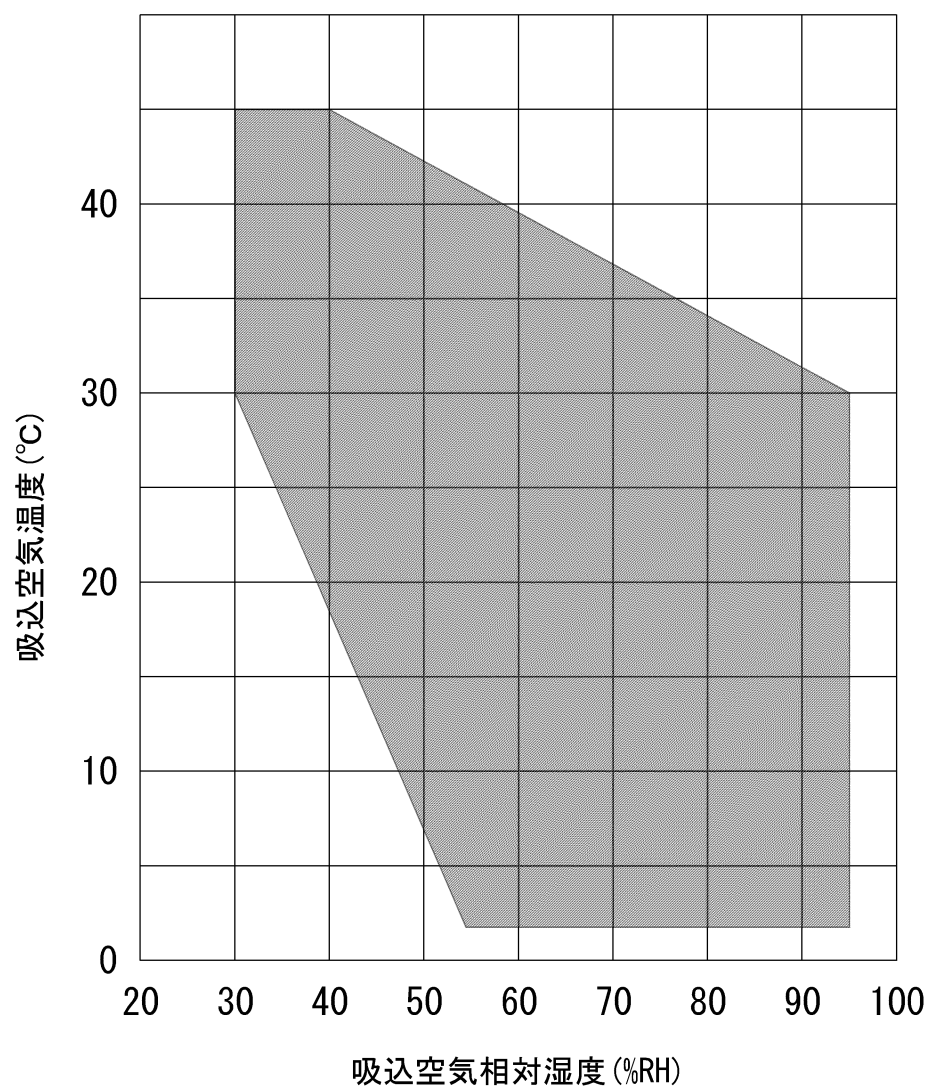
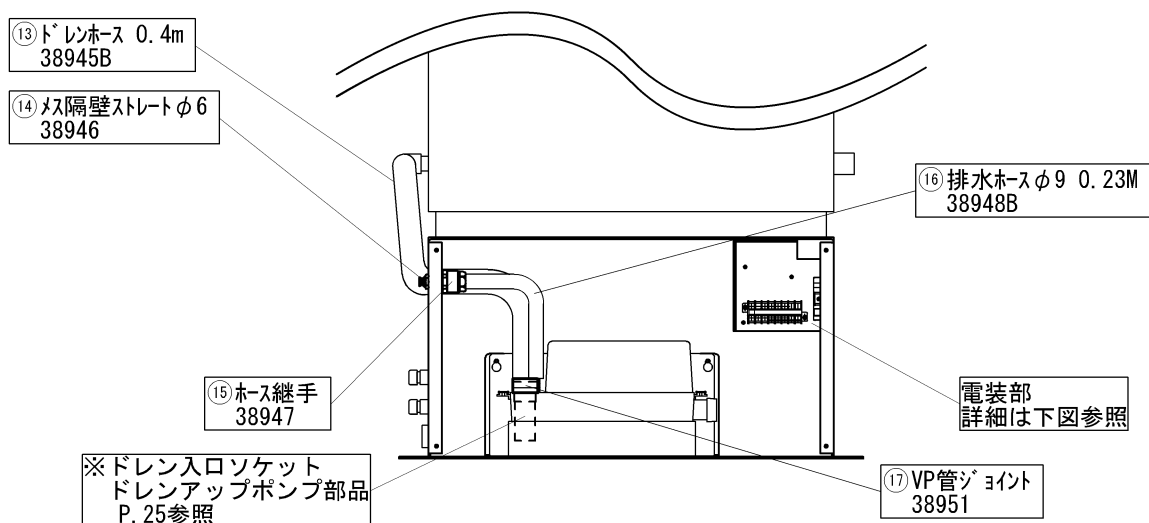
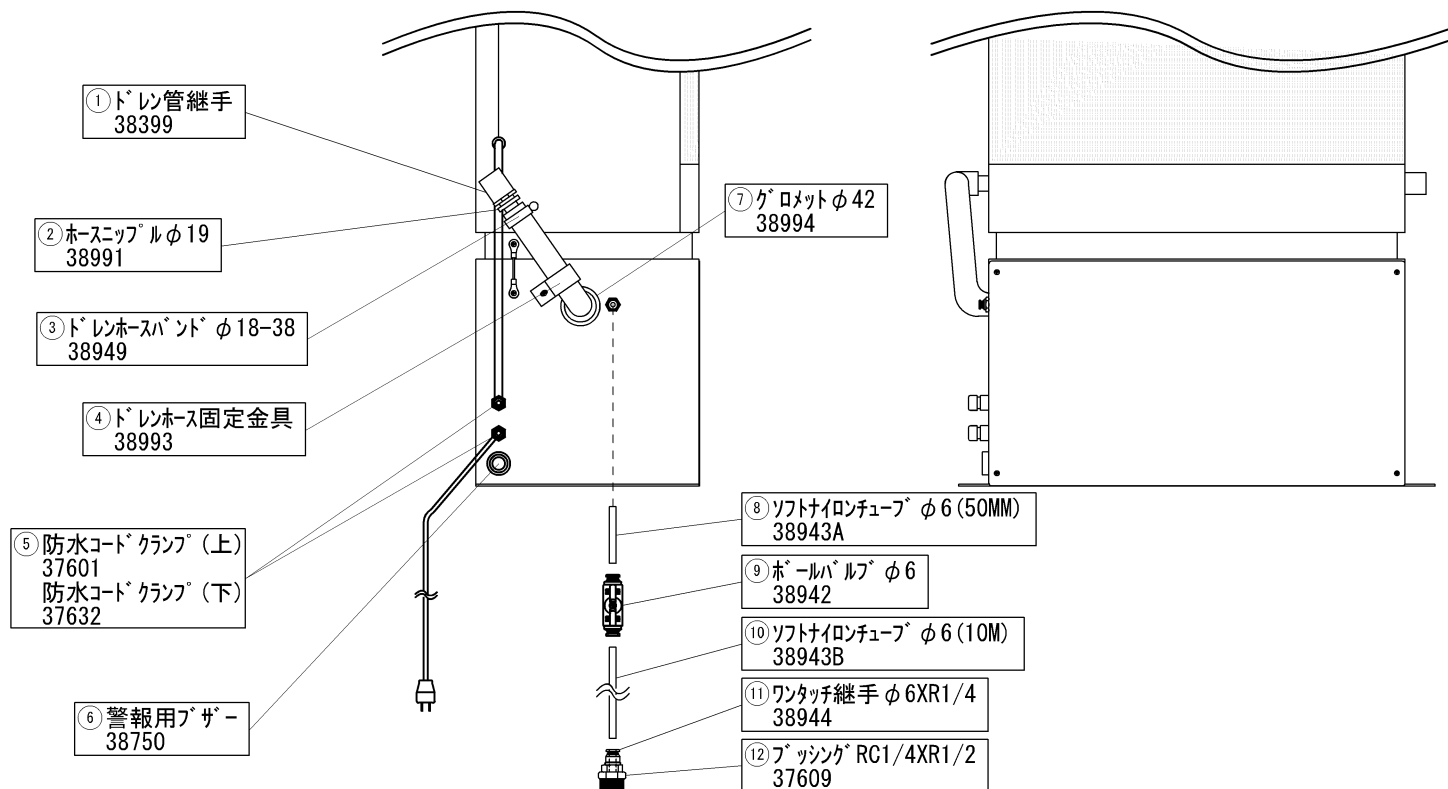


図8-1 除湿機 (DH-P08RB) の吸入空気温湿度条件

9. 補修部品図、部品交換基準

<ドレンアップポンプ組込部補修部品図>



<ドレンアップポンプ組込部(電装部)補修部品図>

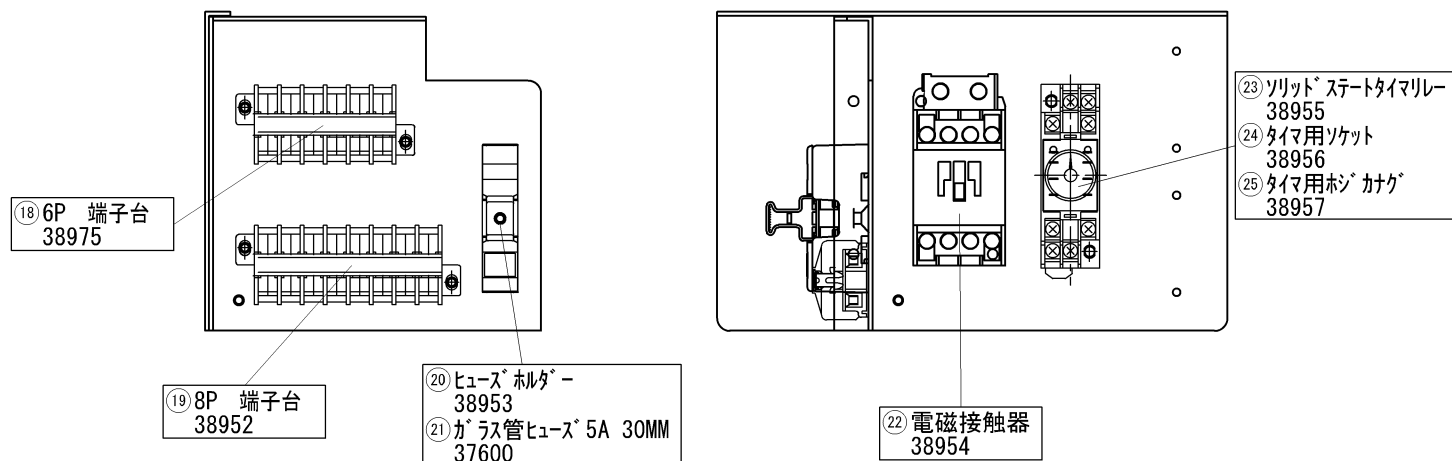


表9-1 部品交換基準 (DH-P08RB-PA)

※年間稼働時間3600時間の場合
(10hr/30日/月×12ヶ月/年)

番号	部品コード	部 品 名	必要数量/台	備考	交換時期の目安
1	38399	ドレン管継手	1		5年または18000時間
2	38991	ホースニップルφ19	1		5年または18000時間
3	38949	ドレンホースバンドφ18-38	1		5年または18000時間
4	38993	ドレンホース固定金具	1		5年または18000時間
5	37601	防水コードクランプ	1	除湿機電源線用	5年または18000時間
	37632	防水コードクランプ	1	電源線用	5年または18000時間
6	38750	警報用ブザー	1		5年または18000時間
7	38994	ゲロメットφ42	1		5年または18000時間
8	38943A	ソフテナイロンチューブφ6 50MM	1		2年または7200時間
9	38942	ボールバルブφ6	1		3年または10800時間
10	38943B	ソフテナイロンチューブφ6 10M	1		2年または7200時間
11	38944	ワンタッチ継手φ6×R1/4	1		5年または18000時間
12	37609	ブッシングRC1/4XR1/2	1		5年または18000時間
13	38945B	ドレンホース 0.4M	1		2年または7200時間
14	38946	メス隔壁ストレートφ6	1		5年または18000時間
15	38947	ホース継手	1		5年または18000時間
16	38948B	排水ホースφ9 0.23M	1		2年または7200時間
17	38951	VP管ジョイント	1		2年または7200時間
18	38975	6P 端子台	1		5年または18000時間
19	38952	8P 端子台	1		5年または18000時間
20	38953	ヒューズホルダー	1		5年または18000時間
21	37600	ガラス管ヒューズ 5A 30MM	1		5年または18000時間
22	38954	電磁接触器	1		5年または18000時間
23	38955	ソリッドステートタイマリレー	1		5年または18000時間
24	38956	タイマ用ソケット	1		5年または18000時間
25	38957	タイマ用ボジカゲ	2		5年または18000時間

<ドレンアップポンプ(オプション品)補修部品図>

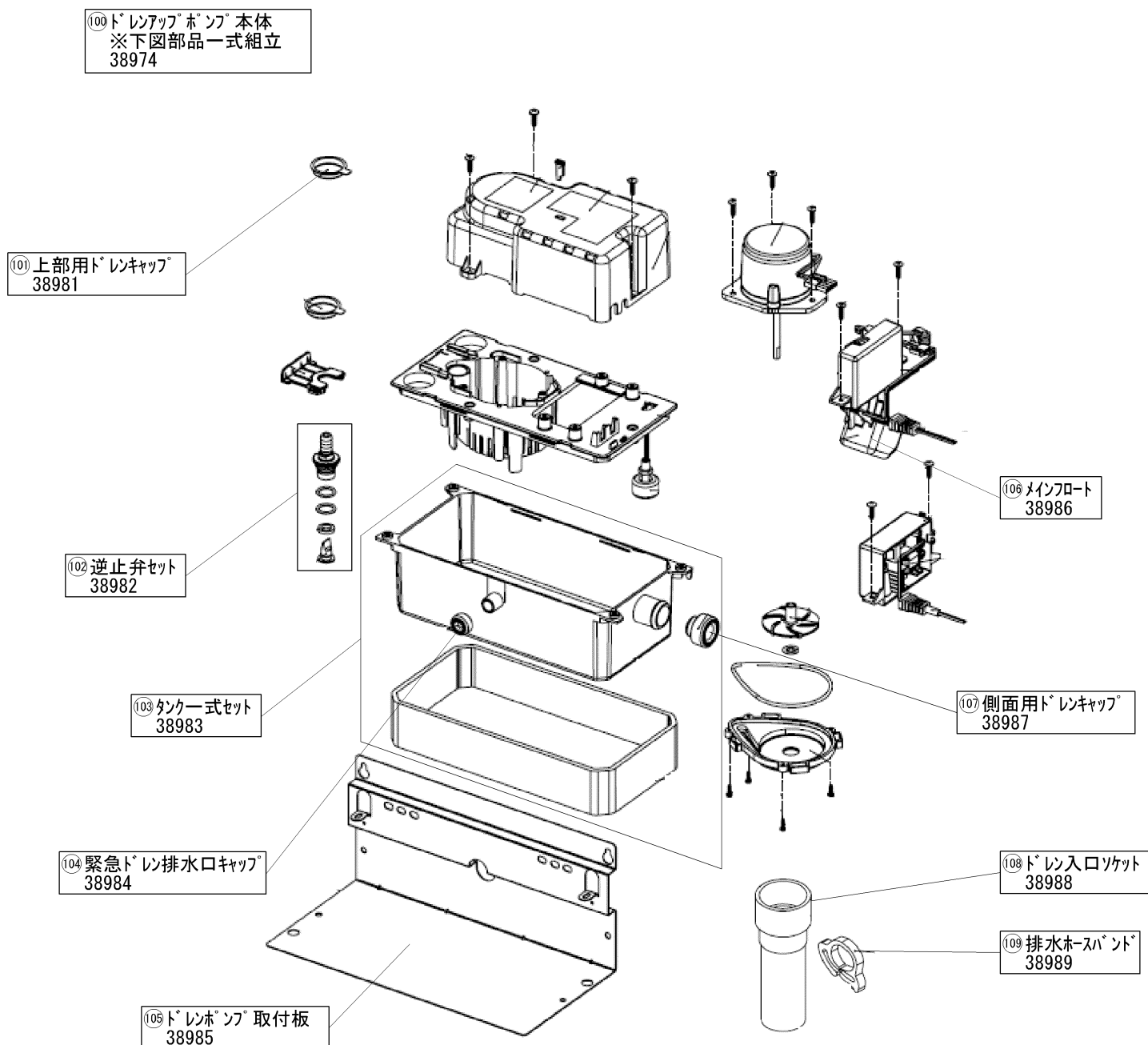


表9-2 部品交換基準(ドレンアップポンプ) ※年間稼働時間3600時間の場合
(10hr/30日/月×12ヶ月/年)

番号	部品コード	部 品 名	必要数量/台	備考	交換時期の目安
100	38974	ドレンアップポンプ 本体	1		5年または18000時間
101	38981	上部用ドレンキャップ	1		5年または18000時間
102	38982	逆止弁セット	1		3年または10800時間
103	38983	タンク式セット	1		5年または18000時間
104	38984	緊急ドレン排水口キャップ	1		5年または18000時間
105	38985	ドレンポンプ 取付板	1		5年または18000時間
106	38986	メインフロート	1		3年または10800時間
107	38987	側面用ドレンキャップ	1		5年または18000時間
108	38988	ドレン入口ソケット	1		5年または18000時間
109	38989	排水ホースバンド	1		5年または18000時間
—	39001	スライム抑制剤	1		1年または無くなり次第

10. 保証期間

<保証期間>

保証期間はご購入いただいた日から1年間です。
万が一、正しい使用方法にもかかわらず故障した場合は、消耗品を除いて無償修理致します。

保証期間においても、特に下記のような場合は有償修理となります。

- ・カタログ、説明書や仕様書などに記載されている以外の不適当な条件、環境、取り扱い、使用方法などに起因した故障の場合
- ・弊社の許可なき改造による故障および損傷
- ・ご購入後の落下、輸送上の故障および損傷
- ・火災、落雷、地震等天変地異による故障および損傷
- ・本機以外の他の機械装置、基礎、建屋の不良により誘発された故障

尚、本機の故障により誘引する生産の停止、建屋、備品、機器の損傷等その他一切の二次的な損失に関しましては保証の対象外とさせていただきます。

250415改訂R5



ピーエス工業株式会社

東京	〒151-0063	東京都渋谷区富ヶ谷1-1-3
名古屋	〒466-0854	名古屋市昭和区広路通5-9-3
大阪	〒564-0062	大阪府吹田市垂水町3-16-3
福岡	〒810-0041	福岡市博多区吉塚1-45-33
熊本	〒860-0028	熊本市中唐人町1番地

TEL 03-3485-8811	FAX 03-3485-8833
TEL 052-838-5525	FAX 052-838-5526
TEL 06-6338-7151	FAX 06-6338-7187
TEL 092-710-6365	FAX 092-710-6368
TEL 096-356-2201	FAX 096-356-2269

ピーエスグループ各社

札幌	〒061-1112	北海道札幌市中央区南一条西4-1-3
盛岡	〒020-0013	盛岡市愛宕町1-6-5
仙台	〒980-0801	仙台市青葉区木町通1-2-28
新潟	〒950-2022	新潟県新潟市西区小針6-6-1-13
長野	〒380-0928	長野市若里1丁目2-3-11

TEL 011-372-7601	FAX 011-372-8886
TEL 019-653-3780	FAX 019-653-3784
TEL 022-211-5431	FAX 022-211-5434
TEL 025-230-6393	FAX 025-230-6394
TEL 026-228-4334	FAX 026-227-4328

<https://ps-group.co.jp/>